

授業科目名：疫学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：齋藤 健
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 疫学の概念・考え方、および疫学における各種の指標について理解する。 2. 疫学の研究方法について、特徴と意義、および各方法の差異を理解する。 3. スクリーニングについて、特性と意義を理解する。 4. 保健対策・公衆衛生看護活動において疫学の考え方が実践されていることを理解する。			
授業の概要			
疫学は、人間集団における疾病および健康現象の発生状況を把握し、それらに影響を及ぼしている要因や条件を総括的に探る学問である。この基本的考え方や方法を理解し、健康問題について論理的な思考で原因を追究する手法を身につけ、疫学の考え方が保健対策や公衆衛生看護活動の基礎となっていることを理解する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：疫学の考え方 ・疫学の概念を理解する。 ・疫学における「因果関係」とは何かを理解する。			
第2回：疫学で用いられる指標（1） ・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 比、率、割合。有病率と罹患率と累積罹患割合。			
第3回：疫学で用いられる指標（2） ・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 相対危険と寄与危険。			
第4回：疫学で用いられる指標（3） ・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 死亡率、年齢調整死亡率、致命率。			
第5回：疫学指標について小まとめ ・小まとめ ・問題演習			
第6回：確認テスト ・小テスト1 ・解答解説を通じて理解を深める。			
第7回：記述疫学、分析疫学（1） ・記述疫学の目的と特色を理解する。 ・生態学的研究、横断研究の目的と特色を理解する。			
第8回：分析疫学（2）、介入研究 ・コホート研究、症例対照研究の目的と特色を理解する。 ・介入研究の目的と特色を理解する。			
第9回：真実と誤差、バイアス、交絡 ・調査研究の結果に含まれる真実と誤差について理解する。 ・バイアス、交絡因子、信頼性と妥当性について理解する。			
第10回：疫学調査とEBM・EBN ・疫学調査とEBM・EBNについて理解する。 ・問題演習			
第11回：疫学研究方法について小まとめ・確認テスト ・小テスト2 ・解答解説を通じて理解を深める。			

第12回：スクリーニングの概要 ・スクリーニングの意義・方法を理解する。 ・スクリーニングの実施上の原則、感度と特異度を理解する。 第13回：スクリーニングの実際 ・スクリーニングの実際を理解する。　・問題演習 第14回：スクリーニングについて小まとめ・確認テスト ・小テスト3　・解答解説を通じて理解を深める。 第15回：総まとめ ・実際の疫学研究例から、疫学研究の意義を理解する。 ・関連する国家試験問題解説 定期試験
テキスト 大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第3版）」（医歯薬出版）
参考書・参考資料等 適宜紹介する。
学生に対する評価 定期試験60%、小テスト30%、その他10%

授業科目名： 生活環境論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：江本 匡
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 自然環境、社会環境、生活環境と健康との関わりの概略を説明できる。			
2. 生活全般をカテゴリー化した構造をもとにヘルスプロモーションの概念を説明できる。			
3. ストレスと免疫低下、病気との関係が概説できる。			
4. 生活習慣病を生体リズムの乱れ、後天性の代謝障害の面からも理解できる。			
5. 情報の収集・利活用と健康の関わりが説明できる。			
6. 地球温暖化の危険性、環境保全の重要性を認識し、保全活動を実践できる。			
授業の概要			
人間を取り巻く自然および社会・文化的な環境をシステムという視点から再考し、それらの相互関係を深く認識するとともに、現在、システムで進行している様々な問題点を深く理解し、人の健康と生活の充実、健全な社会の発展という面から、課題に柔軟に対応できる能力の涵養を目的とする。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：「健康のとらえ方」：生活環境と健康について			
第2回：「環境と健康」：近年の動向			
第3回：「環境刺激に対する調節と適応」：恒常性、ストレス対応			
第4回：「水、空気と健康問題1」：汚染と健康問題の変遷			
第5回：「水、空気と健康問題2」：汚染と健康問題の変遷、 「リスク評価とリスクマネジメント」：リスクの考え方と理解			
第6回：「社会環境と健康保健」：地域社会と保健、消費者保健			
第7回：「生体防御と免疫システム」：免疫システムの理解			
第8回：「人畜共通感染症、新興感染症」：感染症の理解、新興感染症			
第9回：「放射線の環境拡散と健康影響」：放射線による健康影響の理解			
第10回：「アレルギー性疾患の増加とその背景」：アレルギー疾患の理解			
第11回：「からだのリズムと健康、生活習慣病」：生体リズム等の理解			
第12回：「環境におけるポジティブファクターと癒し」：生活環境における癒しと植物や風景の影響			
第13回：「情報化社会におけるコンピューターの利活用と健康」：VDT作業と健康の理解			
第14回：「予防原則から考える環境と健康」			
第15回：「待ったなしの地球温暖化対策」：地球温暖化の進行と健康問題について			
定期試験			
テキスト			
佐々木胤則編著「変化する環境と健康 改訂版」（三共出版）			
参考書・参考資料等			
テキストの章末を参照する。最新の資料は講義中に適時提示する。			
学生に対する評価			
目標の到達状況を授業での小テストと期末試験により評価し、それぞれの評価割合は、小テスト(4回予定)40%、定期試験 60%とする。			

授業科目名： 保健医療福祉行政論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1単位		担当教員名：武澤千尋、安藤陽子、小川克子、作並亜紀子 担当形態：オムニバス	
科 目		養護に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 保健医療福祉行政の理念と仕組みについて理解する。 2. 保健医療福祉の財政とその仕組みについて理解する。 3. 社会状況に応じた保健医療福祉行政施策の変遷からその重要性を理解する。 4. 保健医療福祉行政政策についての基本的知識を理解する。 5. 衛生行政の仕組みと関係法規を理解する。 6. 衛生行政における看護職の役割と連携について理解する。 7. 医療行政の側面からみた医療提供体制の現状と課題を理解する。							
授業の概要							
保健医療福祉サービスの基本的要素である保健医療福祉行政の理念と仕組みについて学ぶ。また、社会状況に応じた保健医療福祉政策の変遷を学び、施策化に必要な行政の仕組み、法規の知識を理解することで、保健医療福祉における看護職の役割と連携を考えることができる。さらに、人々の生命の保持及び健康の保持・増進のための社会システムの基盤をなす医療の提供体制を理解するため、医療行政の側面からみた医療提供体制の現状と課題について学ぶ。							
授業計画（1コマ90分）							
第1回：保健医療福祉行政の概要（担当：武澤千尋） 1. 厚生行政と保健医療福祉行政 2. 保健医療福祉行政の仕組み 3. 地方自治と地方分権 4. 個人情報と個人情報保護							
第2回：保健医療福祉行政の財政（担当：武澤千尋） 1. 国と地方公共団体の財政の仕組み（財政の意義と機能、国家財政、地方財政） 2. 予算の機能と原則（財政民主主義、国の予算の手続き、地方公共団体の予算の手続き）							
第3回：社会状況に応じた保健医療福祉施策の変遷①（担当：小川克子） 1. 健康日本21と健康増進法 2. 日本の歯科保健対策 3. 少子高齢化対策							
第4回：社会状況に応じた保健医療福祉施策の変遷②（担当：作並亜紀子） 1. 障がい者の保健医療福祉施策 2. 新しい感染症対策と健康危機管理							
第5回：保健医療福祉行政施策の基本的知識（担当：小川克子） 1. 保健医療福祉計画策定のプロセス 2. 策定プロセスと住民参加							
第6回：保健医療福祉行政における看護職の役割（担当：小川克子） 1. 行政における保健師の役割と活動 2. 衛生行政における課題と看護職の連携・協働（事例紹介）							
第7回：医療提供体制の現状と課題①（担当：安藤陽子） 1. 医療提供体制の概要 2. 医療行政と2025年問題 3. 医療計画と地域医療構想 4. 救急医療							

第8回：医療提供体制の現状と課題②	(担当：安藤陽子)
1. 在宅医療、地域連携クリティカルパス、訪問看護	
2. へき地医療	
3. 医療安全対策	
定期試験	
テキスト	
藤内修二「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院)	
参考書・参考資料等	
厚生労働統計協会「国民衛生の動向」	
医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)	
学生に対する評価	
定期試験90%、レポート10%	

授業科目名： 保健統計学Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 志渡晃一、米田龍大 担当形態：オムニバス
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ） 衛生・公衆衛生の目的・課題を学び、実践活動を知るとともに、これらを支える科学・技術について知見を集積し、「生活の中で健康をどう考えたらよいのか」広範囲に探求する。 （到達目標） ・衛生学・公衆衛生学の基礎知識を身に付け、広い視点で説明できるようになる。 ・保健・医療・福祉にかかわる統計調査の基礎を学び、健康や疾病に関して統計をとる意味を理解する。				
授業の概要 衛生とは「健康を守り、病気の予防をはかること。清潔に保つこと」であり、公衆衛生の原義は「全ての人の生命と生活を守る」ことである。本科目は保健医療福祉を包括する総合科目であり、衛生・公衆衛生の視点を獲得することに焦点を当てる。学生の主体的な学びを促進し、知識と理解を深めるため、適宜ディスカッションの時間を設け、双方向的な講義を行う。				
授業計画（1コマ90分） 第1回：保健統計学の全体像 保健統計学の目的、集団における健康事象（担当：志渡晃一） 第2回：保健統計調査 国民の疾病予防や健康増進を図るための統計的分析の重要性（担当：志渡晃一） 第3回：人口統計① 人口静態：国政調査、人口ピラミッド、年齢 3 区分と健康指標（担当：米田龍太） 第4回：人口統計② 人口動態：出生、死亡、死産、婚姻、離婚、再生産率（担当：米田龍太） 第5回：人口統計③ 生命表、平均余命、平均寿命、健康寿命、年齢調整死亡率、SMR（担当：志渡晃一） 第6回：保健統計① 統計法と保健統計調査、国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査 等（担当：米田龍大） 第7回：保健統計② 学校保健統計、感染症発生動向調査 等（担当：米田龍大） 第8回：保健統計③ 食中毒統計、国民健康・栄養調査 等（担当：志渡晃一） 定期試験				
テキスト 大木秀一「基本からわかる看護統計学入門 第 2 版」（医歯薬出版株式会社） 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024 年度版」				
参考書・参考資料等 鈴木庄亮「シンプル衛生公衆衛生学 2024」（南江堂）				
学生に対する評価 定期試験100%、目標の到達状況を定期試験により評価する。				

授業科目名：養護概説	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：西野昭子
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護概説		
授業のテーマ及び到達目標			
※テーマ：養護の本質と概念、養護教諭の専門性・職務に関する本質を理解する。教育活動を通して子どもの発育・発達の支援を行う力を身につける。			
※到達目標：養護教諭に必要な基本原則を身に付け、養護実践の内容と方法、協働・連携の意義を理解する。子どもの健康課題を見つけ、その解決方法を考え組織を有機的に動かす力を身に付ける。			
授業の概要			
学校教育に果たす養護教諭の役割や職務について学ぶ。養護の概念を理解し、養護教諭に関する歴史・法律等を学び、保健管理・保健教育・保健組織活動・保健室経営・健康相談・組織活動等、養護教諭の職務に必要な知識を身に付け深める。養護教諭に求められている役割を理解し、必要な専門的能力を身につける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、養護の本質と概念、養護教諭の専門性			
第2回：子どもの発達と健康			
第3回：教育における養護活動の位置づけ 養護活動のプロセス			
第4回：保健室経営、保健室の機能			
第5回：養護教諭と学校保健活動			
第6回：保健管理、健康調査、健康観察、健康相談			
第7回：保健教育、学習指導要領と教育課程、ヘルスリテラシー			
第8回：健康教育、集団・個別の保健指導、安全教育、食育			
第9回：協働・連携並びに組織活動			
第10回：学校の特性に応じた養護実践			
第11回：特別支援教育と養護教諭			
第12回：養護教諭の倫理、子どもの権利			
第13回：養護教諭が行う研究 研究とは、種類、方法、進め方			
第14回：現代的な健康課題 不登校・いじめ・リストカット			
第15回：現代的な健康課題 愛着、虐待			
定期試験			
テキスト			
授業開始時に提示			
参考書・参考資料等			
授業中に適時配布・提示			
学生に対する評価			
定期試験（70％） 課題評価（30％）			

授業科目名： 健康教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：近藤明代 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 保健医療の場における健康教育の目的と役割を理解する。 2. 健康教育に用いられる諸理論を理解する。 3. 健康教育の主な対象である成人の学びの特徴を理解する。 4. 健康教育が行われる場を理解する。 5. 健康教育の方法と媒体の特徴を理解する。 6. 個人・集団に対する健康教育の計画策定の知識を獲得する。			
授業の概要			
健康教育の基本となる理論と活動方法について学び、個人・集団を対象とした健康教育の企画・実施・評価に必要な知識を修得し、看護職の役割を理解する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：健康教育の特徴 1. 健康教育の考え方（定義、目的） 2. ヘルスプロモーションと健康教育 3. 成人の学びの特徴と成人期の健康教育の特徴 4. 健康教育が実施される場			
第2回：健康行動と行動変容 1. 生活行動とその行動に影響を与える要因 2. 健康行動と行動変容			
第3回：健康行動、行動変容を理解するための理論（1） 1. 保健信念モデル 2. 変化ステージ理論			
第4回：健康行動と行動変容を理解するための理論（2） 1. エンパワメント理論 2. 社会的認知理論			
第5回：健康教育の方法とその特徴（1） 1. 健康教育の方法と技術 2. 教育教材の種類			
第6回：健康教育の方法とその特徴（2） 1. 健康教育の展開 2. ヘルスプロモーションとプリシード・プロシードモデル 3. プリシード・プロシードモデルを活用した健康教育の展開			
第7回：健康教育の企画・実施・評価（1） 1. 健康教育の企画・準備に必要な知識を方法			
第8回：健康教育の企画・実施・評価（2） 1. 健康教育の評価（評価の目的、評価の種類）			
定期試験			
テキスト 講義時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特定非営利活動法人 日本健康教育士養成機構編著「新しい健康教育」（保健同人社） 宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著「最新保健学講座＜別巻1＞」健康教育論（メヂカルフレンド社） 中村裕美子「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術論」（医学書院） Karen Granz他著、曾根智史他訳「健康行動と健康教育」（医学書院） 宗像恒次「最新行動科学からみた健康と病気」（メヂカルフレンド社） 大西和子、櫻井しのぶ編「成人看護学 ヘルスプロモーション」（ヌーヴェル・ヒロカワ） 日本健康教育学会編「健康教育ヘルスプロモーションの展開」（保健同人社）			
学生に対する評価			
定期試験 90%、毎回の授業の最後に実施する小テスト 10%			

授業科目名： 援助関係論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：木津由美子、 吉田祐子、吉田ゆかり 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）看護専門職として質の高いケアを提供するためには、対象者との援助関係・信頼関係が重要であることから、対象者を深く理解し、人間関係を構築するためのコミュニケーションを中心として基礎的な知識を理解する。 （到達目標） 1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 援助的人間関係がイメージできる。 3. コミュニケーション技術を習得できる。			
授業の概要 看護実践の場において、患者や家族との信頼関係を構築するために必要となるコミュニケーションについて、その意義や目的と基本や集団について理解することを目的とする。看護の実践の場におけるコミュニケーションの意義や目的、基礎的なコミュニケーションの知識と方法について学習したうえで、効果的なコミュニケーションのとり方について学習する。また、看護実践の場においてチームの一員としての医師や看護師、その他のスタッフとの連携を図るための情報の整理の仕方について、実務的な側面から理解する。			
授業計画（1コマ90分） 第1回：人間関係における自己と他者（担当：木津由美子） 1. ガイダンス 2. 人間関係とは 3. 自己とは・他者とは 4. コミュニケーションとは 第2回：人間関係をつくる理論と技法①（担当：木津由美子） 1. コミュニケーションとは 2. 様々なコミュニケーション技法 第3回：対人関係と役割①（担当：吉田ゆかり） 1. 対人関係の成立 2. 自己理解・他者理解 3. 構成的グループエンカウンター（SGE）とは 第4回：演習：人間関係をつくるコミュニケーション（担当教員全員） 1. 人間関係の構築に必要なコミュニケーションについて体験学習をする。 2. 構成的グループエンカウンターについて体験学習をする。 第5回：演習：人間関係をつくるコミュニケーション（担当教員全員） 1. 人間関係の構築に必要なコミュニケーションについて体験学習をする。 2. 構成的グループエンカウンターについて体験学習をする。 第6回：対人関係と役割②（担当：吉田ゆかり） 1. 対人関係とカウンセリングマインド 2. SGEの思想と理論的背景 3. 対人葛藤と対処 第7回：対人関係と役割③（担当：木津由美子） 1. 集団の特性 2. 集団での課題遂行・問題解決・意思決定 3. リーダーシップ 第8回：人間関係をつくるコミュニケーション技法②（担当：木津由美子） 1. アサーションの理論とスキル 第9回：人間関係をつくるコミュニケーション技法③（担当：木津由美子） 1. コーチングの理論とスキル 第10回：保健医療チームの人間関係（担当：木津由美子） 1. 医療におけるチームと看護師の役割 2. チームワークとチームエラー 3. チームにおけるコミュニケーション 第11回：演習：看護学生としてのコミュニケーション（担当：木津由美子、吉田祐子） 1. 看護者として必要なコミュニケーション技法を体験学習する 第12回：演習：看護学生としてのコミュニケーション（担当：木津由美子、吉田祐子） 1. 看護者として必要なコミュニケーション技法を体験学習する 第13回：患者を支える人間関係（担当：木津由美子）			

1. リフレクション 2. プロセスレコード	
第14回：様々な看護場面における人間関係	(担当：木津由美子)
1. クリティカルな状況の患者を支える人間関係 2. 慢性疾患をかかえて生きる患者を支える人間関係 3. 死に向かう患者を支える人間関係	
第15回：組織におけるコミュニケーション・スキル	(担当：木津由美子)
1. 組織におけるコミュニケーション：社会人基礎力 2. 効果的に説明するスキル 3. 議論を促進するスキル 4. セルフ・マネジメント・スキル	
定期試験	
テキスト	
石川ひろの編「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」第3版（医学書院）	
片野智治著「構成的グループエンカウンター」（駿河台出版社）2003	
参考書・参考資料等	
篠崎恵美子著「看護コミュニケーション：基礎から学ぶトレーニング」（医学書院）2015	
山脇圭輔・本田周二著「メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論」（南江堂）2021	
学生に対する評価	
定期試験60%、提出物（ワークシート）40%	

授業科目名： 栄養代謝学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：川口美喜子、 金高(荻原)有里、渡辺いつみ 担当形態：オムニバス	
科 目		養護に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		栄養学（食品学を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 栄養学・食品学・代謝・消化吸収などの基礎知識と最新の臨床栄養、栄養ケアマネジメントなどを修得し、栄養問題に対する対処方法を学修する。							
授業の概要 栄養（食品学を含む）に関する基礎知識を学修し、看護業務にとっての栄養学を学ぶ意義や大切さを学修する。							
授業計画（1コマ90分）							
第1回：ガイダンス・栄養管理とは（担当：渡辺いつみ） 1. ガイダンス 2. 健常者と傷病者の栄養管理 3. 保険制度と栄養・食事							
第2回：体の構成と食事栄養（担当：金高(荻原)有里） 1. 人体の構成成分 2. 食品の栄養素 3. 食品構成表 4. 五大栄養素 5. エネルギー							
第3回：糖質の消化・吸収・代謝（担当：金高(荻原)有里） 1. 糖質の構造 2. 消化・吸収・代謝							
第4回：脂質の消化・吸収・代謝（担当：金高(荻原)有里） 1. 脂質の構造 2. 消化・吸収・代謝							
第5回：蛋白質の消化・吸収・代謝（担当：金高(荻原)有里） 1. 蛋白質とアミノ酸 2. 消化・吸収・代謝							
第6回：エネルギー代謝（担当：金高(荻原)有里） 1. 食事エネルギー 2. エネルギー消費 3. 体内エネルギー貯蔵 4. 肥満と痩せ							
第7回：水と電解質、ビタミン（担当：金高(荻原)有里） 1. 水と血液 2. pH 3. ミネラル 4. ビタミン							
第8回：代謝の調節と異常（担当：金高(荻原)有里） 1. 遺伝子 2. ホルモン 3. 神経 4. 代謝病（メタボリックシンドローム）							
第9回：ライフサイクルと栄養（担当：渡辺いつみ） 1. 乳幼児期 2. 学童期 3. 思春期 4. 青年期 5. 妊娠期 6. 老年期							
第10回：栄養管理の実際①（担当：渡辺いつみ） 1. 栄養ケアとは 2. 臨床および介護における栄養ケアと食事 3. 日本人の食事摂取基準							
第11回：栄養管理の実際②（担当：渡辺いつみ） 1. 栄養評価方法（スクリーニング・アセスメント）と栄養計画							
第12回：栄養投与方法（担当：川口美喜子） 1. 経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養							
第13回：チーム医療（担当：川口美喜子） 1. 栄養管理とチーム医療の実際							
第14回：疾患と栄養①（担当：渡辺いつみ） 1. 内分泌疾患 2. 腎疾患 3. 消化器疾患の栄養管理							
第15回：疾患と栄養②、まとめ（担当：渡辺いつみ） 1. 低栄養 2. その他の疾患の栄養管理 3. まとめ							
定期試験							
テキスト 津田とみ著「よくわかる専門基礎講座 栄養学」（金原出版）							
参考書・参考資料等 ハンス・コンラート・ビーザルスキー、ペーター・グリム、スザンネ・ノビッキー グリム著 「基礎・栄養素・栄養医療の実践からなるカラーアトラス栄養学 オールカラービジュアル栄							

養図解 第8版」 (ガイアブックス)
学生に対する評価 定期試験91%、提出物9%

授業科目名： 臨床栄養学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1単位		担当教員名：川口美喜子	
						担当形態：単独	
科 目		養護に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		栄養学（食品学を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 栄養障害、肥満と代謝疾患、消化器系疾患、循環器疾患、呼吸器系疾患、血液系疾患、摂食障害関連疾患について理解し、栄養管理の知識と技術を修得している。							
2. 患者の実施可能な食事療法の提案ができるようになる。							
授業の概要							
疾患・病態別の栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング・アセスメント、栄養ケア・計画立案、実施、評価、フィードバック）の方法を学修する。また個々の患者の病態、病状、摂取能力にあわせた個別の栄養管理をするために患者の QOL を損なわない栄養補給方法や具体的な食事・栄養のサポート、また患者が実施可能な食事療法について理解する。							
授業計画（1コマ90分）							
第1回：ガイダンス（授業内容 進め方、事前事後学習の仕方など） 疾患・病態別及び栄養管理の概念と流れを学ぶ							
第2回：栄養障害と栄養評価（低栄養） 栄養障害とは何か 栄養スクリーニングとアセスメントについて							
第3回：疾患・病態別栄養管理（1） 消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 消化器疾患（口腔内・食道・胃・十二指腸クローン病、潰瘍性大腸炎、便性のコントロール等）							
第4回：疾患・病態別栄養管理（2） 消化器疾患の栄養ケア・マネジメント（慢性肝炎・脂肪肝・肝硬変・胆嚢炎・慢性膵炎等）							
第5回：疾患・病態別栄養管理（3） 肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（肥満と肥満症・糖尿病等）							
第6回：疾患・病態別栄養管理（4） 循環器疾患の栄養ケア・マネジメント（高血圧・虚血性心疾患・心不全・慢性腎不全・糖尿病腎症等）							
第7回：疾患・病態別栄養管理（5） 呼吸器疾患の栄養ケア・マネジメント（慢性閉塞性肺疾患・慢性呼吸不全等）							
第8回：疾患・病態別栄養管理（6） 血液疾患・摂食障害関連の栄養ケア・マネジメント（貧血・その他の貧血、神経性やせ症・過食症等）							
定期試験							
テキスト							
Visual	栄養学テキストシリーズ	臨床栄養学Ⅰ	総論	中山書店	編集	本田佳子	
Visual	栄養学テキストシリーズ	臨床栄養学Ⅰ	各論	中山書店	編集	本田佳子	
参考書・参考資料等							
適宜紹介する。							
学生に対する評価							
目標の到達状況を定期試験 80%、課題レポート 15%、小テスト5%により評価する。							

授業科目名： 形態機能学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：家子正裕、高橋昌己 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	解剖学・生理学		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 人体の各部位の名称や解剖学用語を説明できる。 2. 人体を構成する細胞、組織、器官、器官系の特徴と機能を説明できる。 3. 運動器の構造を機能と関連づけて説明できる。 4. 血液の組成、血液型を機能と関連づけて説明できる。 5. 循環器の構造を機能と関連づけて説明できる。 6. 呼吸器の構造を機能と関連づけて説明できる。 7. 体温とその調節の仕組みを説明できる。 8. 生体防御機構の概要を機能と関連づけて説明できる。			
授業の概要			
形態機能学Ⅱとともに、人体の構造と機能を生活行動と連動させながら系統的に学習し、これから学ぶ病態学、疾病治療論、看護学などの基礎を支える科目とする。ここでは、形態機能学の基礎知識、身体の支持・運動に関わる骨格系と筋系について正常の構造・形態と機能、血液の働きに関する血液系、血液の循環とその調節に関する循環器系、呼吸とその調節に関する呼吸器系、体温維持に関する体温調節機構、身体機能の防御と適応に関する生体防御系を学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：科目ガイダンス/形態機能学総論（担当：家子正裕） 講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・ヒトの体の最小単位と系統 ・人体の基準平面 ・体を構成する4つの組織			
第2回：骨格系の構造と機能（1）（担当：高橋昌己） ・人体の骨格系 ・骨の形態と構造 ・骨の組織と組成 ・骨の生理機能			
第3回：骨格系の構造と機能（2）（担当：高橋昌己） ・骨の連結の種類 ・関節の種類と機能 ・不動性連結の種類と機能 ・骨格筋の構造と作用			
第4回：体幹の骨格と筋（担当：高橋昌己） ・脊柱と胸郭 ・頭頸部の骨格と筋 ・胸部、背部、腹部の筋			
第5回：上肢の骨格と筋（担当：高橋昌己） ・上肢帯の骨格と筋群 ・自由上肢の骨格と筋群 ・上肢の運動			
第6回：下肢の骨格と筋（担当：高橋昌己） ・下肢帯の骨格と筋群 ・自由下肢の骨格と筋群 ・下肢の運動			
第7回：筋収縮のしくみ（担当：高橋昌己） ・随意筋の収縮機構 ・遅筋と速筋の特徴 ・不随意筋収縮の特徴			
第8回：血液の成分と機能（担当：高橋昌己） ・血液の組成と機能 ・赤血球の産生と機能 ・白血球の種類と機能 ・血小板の産生と機能 ・血液凝固と線溶系			
第9回：血液型の種類と意義（担当：家子正裕） ・ABO血液型 ・Rh血液型 ・その他の血液型 ・血液型と輸血			
第10回：循環器の構造と機能（1）（担当：家子正裕） ・血管の構造と種類 ・心臓の構造と機能 ・心臓収縮と心電図 ・血圧の成り立ち			
第11回：循環器の構造と機能（2）（担当：家子正裕） ・毛細血管における体液移動 ・静脈系の特徴と静脈還流の調節 ・リンパ循環のしくみ ・胎生期循環の特徴			

第12回：呼吸器の構造と機能（1） ・呼吸器系の概略 ・鼻腔、咽頭、喉頭の構造と発声のしくみ ・気管と気管支の構造と特徴 ・肺の構造と区分、胸部X線写真の見方	（担当：家子正裕）
第13回：呼吸器の構造と機能（2） ・縦隔の区分 ・胸膜腔の構造と呼吸運動 ・呼吸ガス交換とガス運搬 ・呼吸運動の調節と呼吸機能検査	（担当：家子正裕）
第14回：体温調節機構 ・熱産生と熱放散のしくみ ・体温の意義と測定法 ・体温調節のしくみ ・発熱パターン ・高体温と低体温における身体の反応	（担当：家子正裕）
第15回：生体防御機構のしくみ 定期試験ガイダンス ・生体防御系の種類 ・免疫系の種類と構成成分 ・免疫細胞の種類と機能 ・定期試験について	（担当：家子正裕）
定期試験	
テキスト	
高松 研、堀内ふき「生体のしくみ標準テキスト第3版 新しい解剖生理」 （医学映像教育センター）【電子テキスト】	
参考書・参考資料等	
坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀 「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1」（医学書院）	
学生に対する評価	
定期試験100%	

授業科目名： 形態機能学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：家子正裕、高橋昌己 担当形態：オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	解剖学・生理学		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 上部消化管と下部消化管の構造を機能と関連づけて説明できる。 2. 肝臓・胆嚢・膵臓の構造を機能と関連づけて説明できる。 3. 泌尿器の構造を尿の生成機構および排尿調節機構と関連づけて説明できる。 4. 体液、電解質および酸塩基平衡について構成と機能を関連づけて説明できる。 5. 内分泌器官の構造を内分泌による内臓機能の調節に関連づけて説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の構造を機能と関連づけて説明できる。 7. 感覚器の構造を機能と関連づけて説明できる。 8. 生殖器の構造を機能と関連づけて説明できる。			
授業の概要			
形態機能学Ⅰとともに人体の構造と機能を生活行動と連動させながら系統的に学習し、これから学ぶ病態学、疾病治療論、看護学の基礎を支える科目とする。ここでは食物の消化と栄養素の吸収に関わる消化器系、体液の調節と尿の生成に関わる泌尿器系、内臓機能の調節に関わる内分泌系、情報の受容と処理に関わる神経系と感覚器系、生殖器の正常な形態と機能について学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：科目ガイダンス 消化管の構造と機能（1）（担当：家子正裕） 講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・口腔と咽頭の構造と咀嚼および嚥下機能 ・上部消化管の構造と機能			
第2回：消化管の構造と機能（2）（担当：高橋昌己） ・下部消化管の構造と機能 ・栄養素の消化と吸収 ・消化管ホルモン			
第3回：肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能（担当：高橋昌己） ・肝臓の区分と多様な機能 ・胆嚢の構造と機能 ・膵臓の構造と機能			
第4回：腎臓の構造と機能（担当：高橋昌己） ・腎臓と排尿路の構造 ・尿の生成と調節機構 ・排尿調節機構			
第5回：体液の調節機構（担当：高橋昌己） ・水分の調節 ・電解質の調節 ・酸塩基平衡のしくみ			
第6回：内分泌系の構造と機能（1）（担当：高橋昌己） ・ホルモンの種類と化学構造 ・ホルモン分泌の調節 ・視床下部と下垂体ホルモン ・甲状腺ホルモン			
第7回：内分泌系の構造と機能（2）（担当：高橋昌己） ・副甲状腺ホルモン ・膵臓ホルモン ・副腎皮質/髄質ホルモン ・性ホルモン			
第8回：神経系の構造と機能（1）（担当：高橋昌己） ・神経系の細胞の種類と機能 ・神経細胞の構造と興奮のしくみ ・神経筋接合部の構造と興奮の伝達			
第9回：神経系の構造と機能（2）（担当：家子正裕） ・脳の構造と機能 ・脳室と髄膜 ・脳脊髄液の生成と循環			
第10回：神経系の構造と機能（3）（担当：家子正裕） ・脊髄の構造と機能 ・脳神経と脊髄神経の構造と機能 ・神経伝導路			
第11回：神経系の構造と機能（4）（担当：家子正裕） ・自律神経系の種類と機能 ・脳の高次機能			

第12回：感覚器の構造と機能（1） ・眼球と眼球付属器の構造と視覚機能 ・対光反射と遠近調節 ・眼球運動と神経支配	（担当：家子正裕）
第13回：感覚器の構造と機能（2） ・耳の構造と聴覚および平衡覚 ・舌の構造と味覚 ・嗅上皮と嗅覚 ・体性感覚の種類 ・皮膚の構造と機能 ・疼痛の分類	（担当：家子正裕）
第14回：生殖器の構造と機能（1） ・性分化のしくみ ・男性生殖器の構造と生殖機能	（担当：家子正裕）
第15回：生殖器の構造と機能（2） 定期試験ガイダンス ・女性生殖器の構造と生殖機能 ・受精のしくみ ・定期試験について	（担当：家子正裕）
定期試験	
テキスト	
高松 研、堀内ふき 「生体のしくみ標準テキスト第3版 新しい解剖生理」（医学映像教育センター）【電子テキスト】	
参考書・参考資料等	
坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀 「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1」（医学書院）	
学生に対する評価	
定期試験100%	

授業科目名： 感染免疫学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：家子正裕
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 感染症の原因となる病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫）の主要なものについて各々が起こす疾病と病原性の特徴および感染経路を概説できる。			
2. 感染症の治療（抗菌薬、抗ウイルス薬）と予防（ワクチン）について概説できる。			
3. 日和見感染について、院内感染や多剤耐性菌との関連性を考えながら説明できる。			
4. 院内感染防止の観点からスタンダード・プリコーションについて説明できる。			
5. 消毒法・滅菌法の原理を理解し、適切な方法を選択できる。			
6. 感染症に対するヒトの免疫機構と免疫検査について概説できる。			
授業の概要			
種々の病原微生物に関する生物学的知識と生体側の感染防御機構である免疫のしくみの基本を学び、個々の病原体による感染の成立から発病に至る病態生理に関する理解を深める。さらに新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等の概念を理解し、感染に対する予防対策の基本概念であるスタンダード・プリコーションについて学習する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：科目ガイダンス 感染症とは何か			
講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。			
・感染症の歴史 ・感染と感染症の違い			
第2回：感染症の現状と感染症法			
・新興感染症と再興感染症 ・感染症法の成立経過と内容 ・感染症情報			
第3回：感染様式の種類、病原体の種類と生物学的特徴			
・感染様式の種類と特徴 ・人獣共通感染症 ・感染症の成立要因			
・細菌、真菌、ウイルスの生物学的な特徴			
第4回：感染経路			
・水平感染と垂直感染とその対策 ・接触感染、飛沫感染と空気感染			
・その他、糞口感染、性行為感染、医原性感染、節足動物媒介 感染など			
第5回：感染免疫のしくみ（1）			
・自然免疫と獲得免疫の違い ・獲得免疫における液性免疫と細胞性免疫			
・抗原の種類と抗原性を発揮するための条件			
第6回：感染免疫のしくみ（2）			
・液性免疫の担い手である抗体の種類と役割 ・感染症の診断における免疫検査の基本			
第7回：感染症の予防（1）			
・ワクチンの意義と種類、定期接種と任意接種			
・スタンダード・プリコーションと感染経路別対策			
第8回：感染症の予防（2）			
・滅菌と消毒 ・滅菌法と消毒法の実例とそれらの適切な選択法			
第9回：細菌感染症の治療 細菌感染症（1）			
・抗菌薬の作用機序別分類と副作用 ・抗菌薬に対する細菌の耐性機構			
・ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、ナイセリア属の菌の特徴と代表的疾患			
第10回：細菌感染症（2）			
腸内細菌科、ビブリオ属、グラム陰性好気性菌（緑膿菌、レジオネラ菌、百日咳菌）、リステリア菌、ジフテリア菌などの特徴と代表的疾患			
第11回：細菌感染症（3）			
抗酸菌（結核菌）、らせん菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴と代表的疾患			

第12回：ウイルス感染症（1） ・ウイルス学総論 ・DNA ウイルス：ヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス他 第13回：ウイルス感染症（2） RNAウイルス：オルトミクソウイルス、コロナウイルス、レトロウイルスなど全てのRNAウイルス 第14回：ウイルス感染症（3） 真菌感染症 寄生虫感染症 ・肝炎ウイルス ・真菌（カンジダ、アスペルギルス、ニューモシスチスなど） ・寄生虫：内部寄生虫（原虫類、蠕虫類）、外部寄生虫 第15回：感染症トピックス 定期試験ガイダンス ・感染症法改正について 定期試験
テキスト 藤本秀士 編著 「わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂 3 版」（南山堂）【電子テキスト】
参考書・参考資料等 坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀 「系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1」（医学書院）
学生に対する評価 定期試験100%

授業科目名： 薬理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：町田拓自
			担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 医療における薬物治療とは何かについて理解する。 2. 薬の作用形式、体内動態について理解する。 3. 薬効に影響する因子、薬物の有害作用について理解する。 4. 臓器別、疾患別に使用される薬物を列挙できるようにする。 5. 各薬物の薬理学的性質、副作用を説明できるようにする。			
授業の概要			
薬物治療においては、医師・薬剤師・看護師の三者の連携が重要である。看護師は患者と接する機会が最も多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。薬物に対する生体側の応答及び治療効果、有害作用の機序を学習し、その上で様々な治療薬についての基礎的知識の習得を目指す。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：総論1：薬物治療の目指すもの 第2回：総論2：薬はどのように作用するのか 第3回：総論3：薬はどのように体内をめぐっていくのか、薬効に影響する因子 第4回：総論4：薬物の有害作用はなぜおこるのか、薬の管理と新薬の誕生 第5回：各論1：抗感染症薬 第6回：各論2：抗がん薬、免疫治療薬 第7回：各論3：抗アレルギー薬・抗炎症薬 第8回：各論4：末梢での神経活動に作用する薬物 第9回：各論5：中枢神経系に作用する薬物1 第10回：各論6：中枢神経系に作用する薬物2、心臓・血管系に作用する薬物1 第11回：各論7：心臓・血管系に作用する薬物2 第12回：各論8：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 第13回：各論9：物質代謝に作用する薬物 第14回：各論10：皮膚科用薬・眼科用薬・救急の際に使用される薬物 第15回：各論11：消毒薬・輸液剤および輸血製剤			
定期試験			
テキスト			
吉岡光弘ら 著「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 第15版」（医学書院）			
参考書・参考資料等			
井上智子、窪田哲朗 編「系統看護学講座 別巻 臨床薬理学」（医学書院） 荻田喜代一、首藤誠 編「看護学テキスト 薬理学」（南江堂）			
学生に対する評価			
定期試験80％、小テスト20％			

授業科目名： 精神看護学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉野淳一 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	精神保健		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 精神看護学の考え方について理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状について理解することができる。 3. 精神看護学の関連理論および E.H. エリクソンの発達理論の特徴について理解できる。 4. 各ライフステージにおける精神的健康上の課題について社会的状況と関連付けながら理解することができる。 5. 精神科領域で用いられる看護モデルについて理解することができる。 6. 精神看護領域における人権擁護と倫理について理解できる。 7. 精神を病むということがどのようなことかについて理解を深める。			
授業の概要			
精神看護の概念や精神障がい者問題の社会的背景に対する理解を深めるとともに、人の成長発達の過程や社会状況の中で生じる危機およびその対応について学ぶ。 現在の精神保健医療福祉および精神看護の動向、歴史的変遷、精神保健福祉法などの精神医療に関する法律、精神看護における倫理的問題と人権保障について学び、精神看護および精神保健の現状と課題について総合的な理解を深める。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：ガイダンス：本科目の目的・目標・評価方法について ・こころ（精神）の健康とは ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神障がいとは			
第2回：こころの機能と発達 J. フロイトのこころの構造と発達理論、防衛機制			
第3回：精神科リハビリテーションとリカバリー概念 ・対象喪失という概念とストレングスモデル ・リカバリー			
第4回：ライフサイクルと精神保健① ・エリクソンの心理社会的発達理論 ・ライフサイクルから見た精神看護 ・乳幼児期における精神の健康			
第5回：ライフサイクルと精神保健② ・学童期、思春期・青年期における精神の健康			
第6回：ライフサイクルと精神保健③ ・成人期、老年期における精神の健康			
第7回：精神看護に用いる理論とモデル ・患者－看護師関係 ・セルフケア理論 ・プロセスレコードについて			
第8回：家庭・学校における精神保健 ・家族と精神保健 ・学校と精神保健			
第9回：リエゾン精神看護 特別講師（GS） ・リエゾン精神看護とは ・一般病床における精神科の問題と看護 ・看護師のメンタルヘルス			
第10回：災害精神医学 ・災害精神医学とは ・ストレスとメンタルヘルス ・災害と関連する主な疾患			
第11回：精神保健医療福祉の歴史的変遷 ・世界における精神医療の歴史的変遷 ・日本における精神医療の歴史的変遷			
第12回：精神保健医療福祉に関連した法制度とその活用 ・精神保健福祉の概要 ・精神保健福祉に関連した法律			

第13回：人権を守るために－精神看護における基本的人権と倫理的問題

- ・人権とは
- ・医療者が行うべき倫理的配慮
- ・精神科医療現場で注意すべきこと
- ・原則と倫理綱領
- ・守秘義務と個人情報の保護
- ・患者の権利と人間の尊厳

第14回：精神を病むということ

映画「A Beautiful Mind」 視聴

第15回：精神を病むということ

映画「A Beautiful Mind」 視聴

定期試験

テキスト

萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア 改訂第3版」（南江堂）2022

萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版」（南江堂）2022

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験80%、提出物20%

授業科目名： 看護学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大日向輝美 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本科目は、「看護とは何か」「看護職者とは何をする者か」を主たるテーマに展開する。具体的には、看護の主要4概念である「看護」「人間」「健康」「環境」に関し、「看護とは」「人間とは」「健康とは」といった問に対する自分なりの回答を導くための基礎的な知識を修得するとともに、現代の看護・看護職者がかかえる社会的な課題を踏まえ、看護に向き合う自己の役割・責任の認識・自覚を高めることをねらいとする。			
到達目標：			
1. 看護学とは何か、看護に看護学はなぜ必要であるのかを自分なりに説明できる。			
2. F・ナイチンゲール、V・ヘンダーソンが述べた看護の概念、主要な看護理論家による看護の定義の理解をもとに、「看護とは何か」に関する自分の考えを記述できる。			
3. 人間の成長・発達、行動の動機づけとなる基本的欲求、病を抱えた人間の心理や行動に関する理解をもとに、看護職者は人間をどのように捉えればよいのかについて、自分の考えを記述できる。			
4. 人間と環境、環境と健康、人間・環境・健康の関連について説明できる。			
5. 代表的な健康の定義と健康観、その変遷を理解した上で、人間にとっての健康とはどのようなことか、自分の考えを記述できる。			
6. 看護における観察の概念、観察に影響する要因を理解した上で、看護と観察に関する自分の考えを記述できる。			
7. 看護職者の3つの役割機能を説明できる。			
8. 看護・看護職者を支える法、及び看護と倫理のかかわりを説明できる。			
9. 保健・医療・福祉の概念、保健・医療・福祉における看護職者の役割、及び看護政策に関する理解をもとに、看護・看護職者を取り巻く社会的な課題に関する自分の考えを記述できる。			
10. チーム医療、多職種連携の概念に関する理解をもとに、医療チームにおける看護職者の役割について、自分の考えを記述できる。			
授業の概要			
看護を説明する「看護」「人間」「健康」「環境」の4概念とそれらの連関、及び看護職者の役割・機能、保健・医療・福祉における看護の役割等について学ぶ。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：看護と看護学			
1. ガイダンス、2. 看護と看護学			
第2回：近代看護の誕生			
1. F・ナイチンゲールが描き出した看護と未来			
2. 看護を説明する主要概念：看護・人間・健康・環境			
第3回：看護とは何かー1			
1. F・ナイチンゲールの看護論			
第4回：看護とは何かー2			
1. F・ナイチンゲールの看護論（つづき）			
第5回：看護とは何かー3			
1. V・ヘンダーソンの看護論、2. 現代における看護の定義			
第6回：人間はどのような存在かー1			
第5回までの授業内容に関するテスト			
1. ひとが生きて暮らすこと、2. 人間の成長と発達			
第7回：人間はどのような存在かー2			
1. 人間の基本的欲求、2. 病をかかえた人間			

第8回：人間と環境のかかわり

1. 環境とは何か、2. 人間と環境の相互作用、3. 健康と環境の関連

第9回：健康とは何か

1. 健康の概念と変遷、2. 健康の成立要因、3. 日常生活と健康

第10回：看護職者は何をするのかー1

第6～9回の授業内容に関するテスト

1. 看護職者の役割・機能、2. F・ナイチンゲールの「三重の関心」、3. 看護における観察

第11回：看護職者は何をするのかー2

1. 生活行動を助ける役割、2. 診療過程を支える役割、3. 看護の機能を高める役割

第12回：社会と看護のかかわりとはー1

1. 看護を支える法

第13回：社会と看護のかかわりとはー2

1. 看護と倫理のかかわり

第14回：社会と看護のかかわりとはー3

1. 看護を取り巻く制度、2. 看護政策とは、3. 看護職の働く場
4. 保健・医療・福祉の概念と看護の役割

第15回：チーム医療と看護のかかわり

第11～14回の授業内容に関するテスト

1. チーム医療、多職種連携の概念、2. チーム医療の必要性和看護の役割
3. チーム医療の課題

テキスト

高橋照子編著「看護学概論」（南江堂）

F・ナイチンゲール（湯楨ます他訳）「看護覚え書」第8版（現代社）

V・ヘンダーソン（湯楨ます他訳）「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）2023

日本看護協会編「看護職の基本的責務2023年版」（日本看護協会出版会）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート30%、小テスト30%、提出物40%

授業科目名： 看護技術総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：本吉明美、 首藤英里香、園田典子 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 看護技術の定義が意味するものを説明できる 2. 看護技術における安全・安楽・自立・自律の概念を説明できる 3. 感染予防策の概要と感染経路対策を説明できる 4. ボディメカニクスの具体的な活用法を説明できる 5. 対象者の安全・安楽を考えた生活環境を整える意義を説明できる 6. バイタルサインズを観察する意義と観察方法を説明できる 7. 感染予防、環境調整、バイタルサインズに関する基本的な看護技術を根拠に基づき実施し、評価できる			
授業の概要			
看護実践に必要な看護技術の概念と特性について学び、看護実践における看護技術の意義を理解する。また、看護技術における安全性、安楽性、自立性の基本原則、および看護技術を提供する際に必要となる能力や態度を理解する。さらに、看護共通技術である感染予防技術、バイタルサインズの観察技術、ボディメカニクスの基本原理、環境調整技術の基本について根拠をもとに学ぶ。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な知識・技術・態度を育む。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：看護技術とは何か		（担当：首藤英里香）	
第2回：感染予防の基礎（1）		（担当：本吉明美）	
1. 感染の基本概念 2. 感染予防の意義と原則 3. 看護活動に必要な感染予防の基本			
第3回：【演習】感染予防の基礎（2）		（担当教員全員）	
1. 手指衛生と個人防護具の取扱い			
第4回：ボディメカニクス（1）		（担当：首藤英里香）	
1. ボディメカニクスの意義 2. ボディメカニクスの要素および活用 3. 小テスト実施			
第5回：【演習】ボディメカニクス（2）		（担当教員全員）	
1. 体位変換と床上移動			
第6回：【演習】ボディメカニクス（3）		（担当教員全員）	
1. 車椅子及びストレッチャーの移乗・移送			
第7回：生活環境の調整（1）		（担当：本吉明美）	
1. 環境調整における看護の役割 2. 生活環境・療養環境の概念 3. 生活環境を構成する物理的・化学的要素 4. 小テスト実施			
第8回：生活環境の調整（2）		（担当：本吉明美）	
1. 安全・安楽な生活空間の提供 2. 療養環境の調整に関する看護の実践			
第9回：【演習】生活環境の調整（3）		（担当教員全員）	
1. ベッドメイキング			
第10回：【演習】生活環境の調整（4）		（担当教員全員）	
1. 臥床患者のリネン交換と体位の調整			
第11回：バイタルサインズの観察（1）		（担当：本吉明美）	
1. バイタルサインズとは 2. バイタルサインズを観察する意義 3. バイタルサインズの変動要因 4. 小テスト実施			
第12回：【演習】バイタルサインズの観察（2）		（担当教員全員）	

1. バイタルサインズの観察	
第13回：【演習】バイタルサインズの観察 (3)	(担当教員全員)
1. バイタルサインズの観察	
第14回：バイタルサインズ測定の技術チェック	(担当教員全員)
1. バイタルサインズの観察に関する看護技術の到達度の確認と課題の明確化	
第15回：【演習】事例を用いた看護技術の実施	(担当教員全員)
1. 行動計画の立案	2. 行動計画に基づいた実践
3. 学生同士で技術を評価し、改善点を明確にする	4. 小テスト実施
テキスト	
1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂)	
2. 深井喜代子他「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社)	
3. 深井喜代子他「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社)	
4. ヘンダーソン、湯槇ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)	
5. ナイチンゲール、湯槇ます他訳「看護覚え書」(現代社)	
参考書・参考資料等	
1. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)	
学生に対する評価	
小テスト40%、提出物40%、実技試験20%	

授業科目名： 看護技術論Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：首藤英里香、 本吉明美、園田典子 担当形態：複数・オムニバス
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 人間にとっての活動と休息の意義を理解し、健康な生活を送るために必要な活動・休息に関する看護方法について説明できる。 2. 人間にとっての清潔の意義を理解し、個人の清潔習慣などを把握した上で健康な生活を送るために必要な看護方法について説明できる。 3. 人間にとっての栄養と食事の意義を理解し、個人の栄養状態や食習慣を把握した上で健康な食生活を維持、促進するための看護方法について説明できる。 4. 人間にとっての排泄の意義を理解し、個人の排泄習慣を把握した上で健康な生活を送るために必要な看護方法について説明できる。 5. 人間にとっての酸素化の意義を理解し、酸素化にかかわる基本的な看護方法について説明できる。 6. 感染予防の意義を理解し、看護活動に必要な感染予防の基本について説明できる。 7. 活動と休息、清潔・衣生活、栄養と食事、排泄、感染予防、酸素化に関する基本的な看護技術を実施できる。				
授業の概要				
本科目では既習の知識を活用しながら対象者の生活上のニーズを考え、健康の回復、維持・増進を支援するための日常生活援助技術の基本を学ぶ。生活における食事、排泄、清潔、活動、睡眠の意義を理解し、それらのニーズを充足するための看護技術について根拠をもとに学ぶとともに、対象者の状況に応じた看護援助を考え、実施する。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な知識・技術・態度を育むことをねらいとする。				
授業計画（1コマ90分）				
第1回：活動と休息の看護①			（担当：首藤英里香）	
1. ガイダンス 2. 活動・休息の意義と看護の役割 1) 人間にとっての活動・運動とは 2) 人間にとっての休息・睡眠とは 3) 活動・休息における看護の役割				
第2回：活動と休息の看護②			（担当：首藤英里香）	
1. 活動・運動と看護援助の基本 1) 健康にとっての活動・運動の意義 2) 活動のメカニズムと特徴 3) 活動に関するアセスメント 4) 活動を支援する看護援助 5) 不動状態が心身に及ぼす影響 6) 不動による悪影響を予防するための看護援助				
第3回：活動と休息の看護③			（担当：首藤英里香）	
1. 休息・睡眠と看護援助の基本 1) 健康にとっての休息・睡眠の意義 2) 睡眠のメカニズム 3) 睡眠の障害が心身に及ぼす影響 4) 休息・睡眠に関するアセスメント 5) 休息・睡眠を促進させるための看護援助 小テスト：活動・睡眠のメカニズムについて				
第4回：【演習】体圧測定			（担当教員全員）	
1. 骨突出部位の体圧測定を実施し、その意味を考察する 2. 安全で安楽なポジショニングについて検討する				
第5回：清潔に関する看護①			（担当：本吉明美）	

1. 人間にとっての清潔の意義	
1) 人間にとって清潔を保つことの意義と目的	
2) 個人の清潔習慣の形成に影響を及ぼす要因	
2. 清潔に関する看護の役割	
1) 身体の清潔に関する看護者の役割	
第6回：清潔に関する看護②	(担当：本吉明美)
1. 清潔の看護にかかわるアセスメント	
1) 身体の清潔に関するアセスメントの視点	
2) 清潔保持に問題がある場合の心身への影響	
3) 身体の清潔保持に看護が必要となる状態とは	
小テスト：清潔の看護に必要な知識について	
第7回：清潔に関する看護③	(担当：本吉明美)
1. 身体の清潔に関する看護援助	
1) 皮膚と粘膜の清潔を保持する方法	
2) 温熱や圧刺激など清潔保持の実施が身体に及ぼす影響	
3) 安全・安楽に清潔の援助を実施する際の原則と考慮すべき因子	
第8回：【演習】寝衣交換	(担当教員全員)
臥床している対象者への寝衣交換を実施し、評価する	
第9回：【演習】清拭	(担当教員全員)
臥床している対象者への清拭を実施し、評価する	
第10回：【演習】清拭	(担当教員全員)
臥床している対象者への清拭を実施し、評価する	
第11回：【演習】洗髪	(担当教員全員)
臥床している対象者への洗髪を実施し、評価する	
第12回：【演習】口腔ケア・足浴	(担当教員全員)
臥床している対象者への口腔ケアと足浴を実施し、評価する	
第13回：食事・栄養に関する看護 ①	(担当：首藤英里香)
1. 栄養と食事の意義と看護の役割	
1) 人間の生活における栄養と食事の意義	
2) 健康を維持するために必要な栄養と消化・吸収・代謝の過程	
3) 栄養と食事における看護の役割	
第14回：食事・栄養に関する看護 ②	(担当：首藤英里香)
1. 栄養のバランスが人間の生活に与える影響	
1) 栄養状態に影響を及ぼす因子	
2) 栄養の過不足が人の生活に与える影響	
第15回：食事・栄養に関する看護 ③	(担当：首藤英里香)
1. 栄養と食事に関するアセスメント	
1) 栄養素量および推定エネルギー必要量の算出	
2) 食行動に影響を及ぼす因子	
3) 食に影響を与える健康問題	
4) 栄養状態の把握	
小テスト：食事と栄養に関する知識について	
第16回：【演習】食事・栄養のアセスメント	(担当教員全員)
1. 食事・栄養に関する情報収集	
2. 収集した情報をもとに食事・栄養の適切性について考える	
3. 不足情報の収集 4. 食事・栄養の適切性について再検討	
5. グループで共有し、改善策を考える	
第17回：【演習】食事・栄養のアセスメント	(担当教員全員)
1. 食事・栄養に関する情報収集	
2. 収集した情報をもとに食事・栄養の適切性について考える	

	3. 不足情報の収集 4. 食事・栄養の適切性について再検討	
	5. グループで共有し、改善策を考える	
第18回	食事・栄養に関する看護 ④ 1. 栄養と食事に関する基本的な看護援助 1) 栄養と代謝に関するニーズを充足するための基本的な看護援助 2) 看護援助の計画立案に際して考慮すべき因子	(担当：首藤英里香)
第19回	【演習】食事の援助 自力で食事摂取が困難な対象者への食事援助を実施し、評価する	(担当教員全員)
第20回	排泄に関する看護 ① 1. 人間にとっての排泄の意義 1) 日常的に行われている排泄の人間にとっての意義 2) よりよい生活を営むための健康にとって望ましい排泄とは 2. 排便・排尿のメカニズムと影響因子 1) 排便・排尿のメカニズム 2) 排便および排尿に影響を及ぼす因子 3) 排便および排尿に変調をきたした状態	(担当：本吉明美)
第21回	排泄に関する看護 ② 1. 排便・排尿の看護にかかわるアセスメント 1) 排便・排尿に関するアセスメントの視点 2) 水分出納の観察の必要性和算出方法 2. 排泄の援助における看護者の役割 1) 排泄に関する看護者の役割 2) 排泄に関する援助の際の原則と考慮すべき因子 小テスト：排泄の看護に必要な知識について	(担当：本吉明美)
第22回	排泄に関する看護 ③ 1. 排便・排尿に関する看護援助 1) 排泄機能が障害されている人への基本的な看護援助 2) 排泄行動に制限のある人への基本的な看護援助	(担当：本吉明美)
第23回	【演習】便器・尿器を用いた排泄援助、陰部洗浄 尿器・便器を使用した排泄援助および陰部洗浄を実施し、評価する	(担当教員全員)
第24回	【演習】浣腸 便秘のある対象者を想定してグリセリン浣腸を実施し、評価する	(担当教員全員)
第25回	感染予防の基礎Ⅱ 1. 感染が人間に及ぼす影響および感染の成立要因 2. 感染のリスクにかかわるアセスメント 3. 感染に対する生体の防御能力の促進への援助と感染のリスクが高い対象者への看護援助 4. 感染予防における看護の役割 5. 看護活動に必要な感染予防の基本：感染源の除去、感染経路の遮断の考え方 小テスト：基本的な感染予防に必要な知識について	(担当：本吉明美)
第26回	【演習】無菌操作・滅菌グローブの着脱他 無菌操作・滅菌グローブの着脱・PPEの着脱を実施し、評価する	(担当教員全員)
第27回	【演習】一時的導尿 一時的導尿を実施し、評価する	(担当教員全員)
第28回	【演習】一時的導尿 一時的導尿を実施し、評価する	(担当教員全員)
第29回	酸素化の看護Ⅰ 1. 人間にとっての酸素化の意義と看護の役割 1) 日常的に無意識に行われている酸素化とは 2) 酸素化に関する看護の役割とは何か 2. 酸素化を営む身体の仕組み（呼吸・循環・血液の機能） 3. 酸素化に影響する因子	(担当：園田典子)

4. 酸素化にかかわる基本的な看護援助：組織の酸素消費量を軽減する方法（冷罨法）、組織の血液循環を促進する方法（温罨法） 小テスト：酸素化の看護に必要な知識について 第30回：【演習】温罨法・冷罨法 (担当教員全員) 温罨法、冷罨法の作成を実施し、評価する
テキスト 1. 深井喜代子他「基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」（メヂカルフレンド社）2021 2. 深井喜代子他「基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」（メヂカルフレンド社）2021 3. 香川明夫監修「八訂 食品成分表」（女子栄養大学出版部）最新版
参考書・参考資料等 1. F.Nightingale（湯槇ます他訳）「看護覚え書」（現代社） 2. V.Henderson（湯槇ます他訳）「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会） 3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」（医学書院） 4. 三木明德監修「人体の構造からわかる看護技術のエッセンス」（医歯薬出版株式会社）
学生に対する評価 小テスト50%、レポート10%、提出物40%で評価する。

授業科目名： 看護技術論Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：首藤英里香、 本吉明美、園田典子 担当形態：複数・オムニバス
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. ヘルスアセスメントの目的と方法について説明できる。 2. ヘルスアセスメントの基本的な技術について実施できる。 3. 看護実践における看護過程の意義について説明できる。 4. 看護実践における看護過程の各側面（アセスメント、看護問題の明確化、計画、実施、評価）とその要素について説明できる。 5. 紙上事例を用いてアセスメント、看護問題の明確化、計画（目標・成果の設定、具体策の立案）、実施（模擬実践）、評価の過程を展開できる。 6. 看護記録の目的および患者情報の取り扱いについて説明できる。				
授業の概要				
本科目では、看護を実践するための科学的な方法である看護過程について、概念と意義、そのプロセスの基本について学ぶ。また、対象者の生活と健康を全人的にアセスメントするためのヘルスアセスメントの基本的な技術について、形態機能学の知識を活用しながら演習を通して学ぶ。さらに、紙上事例を用いた看護過程の展開において、クリティカルシンキングを活用しながら看護の必要性を根拠に基づき判断し、対象者の状況に応じた計画を立案し、実施・評価する一連の方法と看護記録について学ぶ。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して看護実践に必要な判断能力、問題解決能力を高めることをねらいとする。				
授業計画（1コマ90分）				
第1回：ガイダンス、ヘルスアセスメント(1) (担当：首藤英里香) 1. ヘルスアセスメントの概念・目的、共通技術 2. 健康歴聴取の目的と方法 3. 一般状態の観察の目的と方法				
第2回：ヘルスアセスメント(2) (担当：園田典子) 心血管系のアセスメントの目的と方法 小テスト：ヘルスアセスメントの概念・共通技術等				
第3回：看護過程（1） (担当：首藤英里香) 1. 看護実践と看護過程、2. 紙上事例の紹介				
第4回：ヘルスアセスメント(3)【演習】健康歴のインタビュー (担当教員全員) 健康歴のインタビューを実施し、評価する				
第5回：ヘルスアセスメント(4) (担当：園田典子) 肺・胸郭、腹部のアセスメントの目的と方法 小テスト：心血管系、肺・胸郭、腹部のアセスメントに関する知識				
第6回：ヘルスアセスメント(5)【演習】心血管系のアセスメント (担当教員全員) 心血管系のアセスメントを実施し、評価する				
第7回：看護過程（2） (担当：首藤英里香) アセスメント-1：情報の分類、分析・解釈・判断				
第8回：ヘルスアセスメント(6)【演習】肺胸郭のアセスメント (担当教員全員) 肺・胸郭のアセスメントを実施し、評価する				
第9回：ヘルスアセスメント(7) (担当：本吉明美) 筋・骨格系、神経系の目的と方法				
第10回：ヘルスアセスメント(8) (担当：本吉明美) 頭頸部、外皮・リンパ系のアセスメントの目的と方法				

第11回：ヘルスアセスメント(9)【演習】腹部のアセスメント 腹部のアセスメントを実施し、評価する	(担当教員全員)
第12回：看護過程 (3) アセスメント-2：情報の分類、分析・解釈・判断についてグループワークを行う	(担当：首藤英里香)
第13回：ヘルスアセスメント(10)【演習】筋骨格系のアセスメント 筋・骨格系のアセスメントを実施し、評価する	(担当教員全員)
第14回：看護過程 (4) アセスメント-3：情報の分類、分析・解釈・判断についてグループワークを行う	(担当：首藤英里香)
第15回：ヘルスアセスメント(11)【演習】神経系のアセスメント 神経系のアセスメントを実施し、評価する	(担当教員全員)
第16回：看護過程 (5) アセスメント-4：統合	(担当：首藤英里香)
第17回：ヘルスアセスメント(12)【演習】頭頸部、外皮・リンパ系アセスメント 頭頸部、外皮・リンパ系のアセスメントを実施し、評価する	(担当教員全員)
第18回：看護過程 (6) アセスメント-5：統合についてグループワークを行う	(担当：首藤英里香)
第19回：看護過程 (7) 看護問題の明確化と優先順位の検討	(担当：首藤英里香)
第20回：看護過程 (8) 計画-1：目標・期待される成果の設定	(担当：首藤英里香)
第21回：看護過程 (9) 計画-2：具体策の立案 小テスト：看護過程の概念、看護過程の各側面とその要素に関する知識	(担当：首藤英里香)
第22回：看護過程 (10) 計画-3：目標・期待される成果の設定と具体策の立案についてグループワークを行う	(担当教員全員)
第23回：看護過程 (11) 計画-4：目標・期待される成果の設定と具体策の立案についてグループワークを行う	(担当教員全員)
第24回：看護過程 (12) 計画-5：目標・期待される成果の設定と具体策の立案について発表会を行う	(担当教員全員)
第25回：看護過程 (13) 実施-1：模擬実践の援助項目を決定し、具体的な計画についてグループワークを行う	(担当教員全員)
第26回：看護過程 (14) 実施-2：模擬実践の練習をグループで行う	(担当教員全員)
第27回：看護過程 (15・16) 実施-3：模擬実践の発表会を行う	(担当教員全員)
第28回：看護過程 (15・16) 実施-3：模擬実践の発表会を行う	(担当教員全員)
第29回：看護過程 (17) 評価-1：模擬実践についてグループで振り返りを行う	(担当：首藤英里香)
第30回：看護における情報管理 1. 情報とは何か 2. 看護における情報 3. 看護記録における法的規定 4. 個人情報の取り扱い、守秘義務 5. 看護記録の記載時の留意点 小テスト：看護における情報管理に関する知識	(担当：園田典子)
テキスト	
1. 深井喜代子 編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社)	
2. 深井喜代子 編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社)	
3. 稲葉佳江 他編「看護ヘルスアセスメント」(メヂカルフレンド社)	

参考書・参考資料等

1. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」(医学書院)
2. 山内豊明「フィジカルアセスメントワークブック」(医学書院)
3. 日野原重明編「フィジカルアセスメント」(医学書院)
4. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)
5. 三木明德監修「人体の構造からわかる看護技術のエッセンス」(医歯薬出版株式会社)
6. 大久保暢子編「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」(日本看護協会出版会)
7. R. Alfaro-LeFevre (本郷久美子監訳)「基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版」(医学書院)
8. 江川隆子編「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第5版」(ヌーヴェルヒロカワ)

学生に対する評価

小テスト40%、提出物50%、その他10%(学習態度: グループワークの際の積極性・協調性、学習の準備状況等)で評価する。

授業科目名： 看護技術論Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：園田典子、 首藤英里香、本吉明美 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 診療に伴う看護者の役割と責任について説明できる。 2. 診療に伴う看護技術の目的と適応について説明できる。 3. 薬物療法を受ける対象者への看護について説明できる。 4. 酸素化が阻害されている対象者への看護について説明できる。 5. 診療に伴う看護技術を根拠に基づいて安全に実施できる。 6. 診療過程における対象者の日常生活援助の留意点について説明できる。			
授業の概要			
本科目では診療に伴う看護者の役割と責任について理解し、科学的根拠に基づいた安全な看護技術が実施できることを目的とする。また、紙上事例を通して、診療過程にある対象者の日常生活についてイメージを膨らませ、日常生活援助を実施する上での留意点を理解する。演習、グループワークでは主体的に学び、積極的な意見交換を通して対象者へのより良い看護を検討する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：診療に伴う看護の役割		（担当：園田典子）	
1. ガイダンス 2. 診療について 3. 診療に関する看護者の役割			
第2回：検査に伴う看護（1）		（担当：園田典子）	
1. 検査に伴う看護者の役割 2. 検査の種類と検体の取り扱い 3. 採血に関する看護技術			
第3回：【演習】検査に伴う看護（2）		（担当教員全員）	
1. 静脈血採血の基本技術の理解			
第4回：与薬の看護（1）		（担当：園田典子）	
1. 与薬における看護者の役割 2. 薬物療法の目的 3. 薬物療法の種類と生体への影響			
第5回：与薬の看護（2）		（担当：園田典子）	
1. 与薬に関する看護援助 2. 与薬に関する安全管理			
第6回：【演習】与薬の看護（3）		（担当教員全員）	
1. 筋肉内注射の基本技術の理解			
第7回：【演習】与薬の看護（4）		（担当教員全員）	
1. 経口与薬、皮下注射の基本技術の理解			
第8回：【演習】与薬の看護（5）		（担当教員全員）	
1. 点滴静脈内注射の基本技術の理解			
第9回：【演習】経管栄養		（担当教員全員）	
1. 経鼻経管栄養の基本技術の理解			
第10回：酸素化の看護（1）		（担当：園田典子）	
1. 酸素化の過程の阻害とその影響 2. 酸素化に関わるアセスメントの視点 3. 酸素化が阻害されている対象者への看護援助 小テスト実施			
第11回：【演習】酸素化の看護（2）		（担当教員全員）	
1. 酸素吸入、口腔内・鼻腔内吸引の基本技術の理解			
第12回：診療過程における対象者への看護の理解（1）		（担当：園田典子）	
1. 紙上事例を用いて、グループで対象理解に必要な情報、必要な看護援助について検討する			
第13回：診療過程における対象者への看護の理解（2）		（担当：園田典子）	
1. 紙上事例を用いて、グループで対象者への日常生活援助の実施手順を作成する			

小テスト実施	
第14回：【演習】診療過程における対象者への看護の理解 (3)	(担当教員全員)
1. グループで検討した日常生活援助の実施手順に基づいてシミュレーションを実施する	
第15回：【演習】診療過程における対象者への看護の理解 (4)	(担当教員全員)
グループごとに、診療過程における対象者へ計画した日常生活援助、およびシミュレーションで実施した看護援助の評価を発表する。	
テキスト	
1. 深井喜代子編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社)	
2. 深井喜代子編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社)	
参考書・参考資料等	
1. 藤野彰子 他「看護技術ベーシックス」(サイオ出版)	
2. 医療情報科学研究所 編「看護が見えるVol2 臨床看護技術」(メディックメディア)	
3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)	
4. 小林美亜編「医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力」(学研メディカル秀潤社)	
5. 根本多喜子 他「呼吸・循環の変調に 酸素化ケア」(講談社)	
学生に対する評価	
小テスト50%、提出物40%、その他10% (学習態度：グループワークでの積極性・協調性、学習準備状況等)	

授業科目名： 看護基礎実習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：首藤英里香、 本吉明美、園田典子
			担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 対象者の療養環境・療養生活を把握し、対象者との会話を通して生活行動のあり方や健康に関する心情を知ることができる。			
2. 看護実践の見学・体験を通して看護の役割を説明できる。			
3. 実習体験をもとに看護の専門性について考え、今後の自己課題を明確にできる。			
4. 看護者に必要な基本的態度を身につけることができる。			
授業の概要			
本科目では、病院の環境および入院している対象者の療養生活について、看護師の看護実践の見学、対象者とのコミュニケーションや療養環境の整備等を通して理解する。また、学生間で実習における気づきの共有を通して、看護の役割機能に関する理解を深める。これらの学びを通して、看護者に必要な基本的態度を理解するとともに、看護への関心を高め、看護に対する自己の考えを深めることをねらいとする。			
実習方法			
・ 5 日間の日程で、1～4 日は病院実習、5 日目は学内での報告会を行う。			
・ 実習 1 日目は、病院・病棟オリエンテーションを受け、看護実践の見学・実施を行う。			
・ 実習 2 日目からは病棟の実習指導者と行動を共にしながら、看護実践の見学・実施を通して看護の役割について理解を深める。			
・ 実習指導者と行動調整をしてから実習を開始し、終了前に振り返りを行い、学びを整理する。			
・ 最終日に学内でグループワークと全体報告会を行い、学びを共有する。			
テキスト			
これまでに学修した、看護技術総論のテキストや配布資料			
参考書・参考資料等			
これまでに学修した、看護技術総論の配布資料			
学生に対する評価			
実習目標の項目に沿って作成した評価表を使用し、ルーブリックの評価基準に基づき評価する			

授業科目名： 看護基礎実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：首藤英里香、 本吉明美、園田典子 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 対象者と援助関係を築きながら療養生活や健康状態を理解し、必要な看護について看護過程を活用して考えることができる。 2. 対象者の日常生活において必要な看護を実施し、評価できる。 3. 実習体験をもとに看護に対する自分なりの考えを表現し、今後の自己課題を明確にできる。 4. 看護者としての責任を自覚し倫理的行動をとることができる。			
授業の概要			
本科目では、病院に入院している対象者と援助関係の構築を目指して関わり、生活者である対象者を全人的に理解し、対象者の個別のニーズに合わせた看護を計画し、実施・評価するプロセスを学ぶ。対象者への看護実践を通して、看護者としての責任を自覚するとともに、実践した看護を振り返り、看護に対する自己の考えを深めることをねらいとする。			
実習方法			
・10日間の日程で、1～9日は病院実習、10日目は学内での報告会を行う。 ・実習初日に病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションを受ける。 ・対象者を受け持ち、関係を築きながら対象者を全人的に理解する。 ・実習指導者や担当教員の指導を受けながら、対象者の看護上の問題を解決するために必要な看護を考え、実施・評価する。 ・毎日の看護実践を振り返り、実習記録を整理する。 ・病棟実習最終日に病棟での報告会を行い、学びを共有する。 ・実習最終日にグループワークと学内報告会を行い、学びを共有する。 ・実習体験をもとに看護に対する考えと今後の自己課題をレポートに整理する。			
テキスト			
これまでに学修した、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのテキストや配布資料			
参考書・参考資料等			
これまでに学修した、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの配布資料			
学生に対する評価			
実習目標の項目に沿って作成した評価表を使用し、ルーブリックの評価基準に基づき評価する			

授業科目名： 成人看護活動論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：小野善昭、伊藤 円、藤井瑞恵 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
慢性疾患とともに生活する患者・家族、急性期ならびに周手術期にある患者・家族を支えるために必要な援助技術を習得すること及び、救命処置（BLS）の知識・技術を習得することを目的とした演習科目である。以下の内容を到達目標としている。			
1. 事例を通し、慢性疾患を抱える患者・家族のセルフマネジメントならびにセルフモニタリングについて考え、日常生活を支えるための看護技術を実施できる。			
2. 生活者の視点で考え、患者・家族のセルフケアを高める教育的関わりについて説明できる			
3. 事例を通し、急性期にある患者の心身の回復を促進する援助技術を実施できる。			
4. 周手術期にある患者の一連の体験を理解し、術前・術中・術後の各期に応じた援助技術を根拠に基づいて考え、説明できる。			
5. 術後合併症予防のための術前からの介入、早期発見、回復の促進のための援助技術を考え、実施できる。			
6. 心肺停止時の緊急時対応の原則を理解し、効果的な BLS が実施できる。			
授業の概要			
慢性期にある患者の看護をするうえで必要な生活指導の目的、内容、方法について理解し、事例（代謝機能障害患者、呼吸機能障害患者等）を通して援助技術を習得する。また、急性期にある患者（特に周手術期）の看護をするうえで必要な援助技術について、その目的、内容、方法を理解し、演習を通して習得する。具体的には術前オリエンテーション、術前指導・術後観察（モニター）、救命救急処置等の援助技術を習得する。これらの内容は、臨地実習をはじめとする臨床での看護活動に実践できるよう修得することを目指している。特に心肺蘇生法については1人1つの教材を使用し、技術を習得できるようにしている。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助1（担当：小野善昭）			
1. 講義ガイダンス 2. セルフモニタリング 3. 血糖自己測定（SMBG）			
4. インスリン自己注射			
第2回：糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助2（担当：小野善昭）			
1. 血糖自己測定の患者教育（シミュレーション）			
第3回：慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助1（担当：伊藤円）			
1. 日常生活の中の困難 2. 呼吸器疾患とセルフマネジメント			
3. 呼吸を整える援助			
1) 呼吸練習（口すぼめ呼吸、腹式呼吸）2) 呼吸困難に対する安楽な体位			
3) 酸素吸入療法と酸素飽和度			
第4回：慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助2（担当：伊藤円）			
1. 慢性の呼吸器疾患を持つ事例患者への看護実践（シミュレーション）			
第5回：慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり1（担当：小野善昭）			
1. 事例患者のセルフケアエージェンシーとセルフケアデマンドの明確化			
2. 事例患者が生活を再調整する上での目標の明確化			
3. 目標を達成するための指導案の作成 ※グループワーク			
第6回：慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり2（担当：小野善昭）			
1. 事例患者に対する指導案の発表			
1) 指導案に基づいたロールプレイ 2) ディスカッション			
第7回：がん化学療法を受ける患者の援助1（担当：伊藤円）			
1. がん薬物療法と使用される薬剤の特性			
2. 薬物療法に伴う有害事象とそれに対するケア ※ ゲストスピーカー			
第8回：がん化学療法を受ける患者の援助2（担当：伊藤円）			
1. 化学療法認定看護師の役割			

2. 化学療法認定看護師の行う看護の実際 ※ ゲストスピーカー	
第9回：周手術期にある患者への援助技術1	(担当：小野善昭)
1. 全身麻酔で手術を受ける事例患者のアセスメントの共有と整理・修正 ※グループワーク	
第10回：周手術期にある患者への援助技術2	(担当：小野善昭)
1. 呼吸器合併症（無気肺・肺炎）、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、消化器系合併症（術後腸閉塞）、手術部位感染（SSI）、等の看護計画の立案 2. 発表資料の作成 ※グループワーク	
第11回：周手術期にある患者への援助技術3	(担当：小野善昭)
1. 事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1) 手術後合併症の要因 2) 術前・術後の看護 3) ディスカッション	
第12回：周手術期にある患者への援助技術4	(担当：小野善昭)
1. 手術直後の看護 1) 手術直後の患者の状態と必要な看護（観察の要点など）	
第13回：周手術期にある患者への援助技術5	(担当：小野善昭)
1. 手術直後の患者の観察 1) 手術直後の患者のバイタルサインズの測定 2) 創傷部位・ドレナージ等、全身状態の観察 3) 測定・観察した内容の記録	
第14回：周手術期にある患者への援助技術6	(担当：小野善昭)
1. 輸液管理（点滴内容の確認ならびに滴下数の計算と設定） 2. DVT予防（弾性ストッキング、間欠的空気圧迫法） 3. 創傷管理（創傷処置ならびにドレーン挿入部の処置）	
第15回：一次救命処置（BLS）の実際	(担当：小野善昭)
1. AEDを用いた一次救命処置 2. 人工呼吸とバックバルブマスクを用いた換気方法	
定期試験	
テキスト	
1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術 改訂第3版」（南江堂） 2. 鈴木久美、他：「成人看護学 慢性期看護 第3版」（南江堂） 3. 矢永勝彦他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」（医学書院） 4. 北島政樹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」（医学書院）	
参考書・参考資料等	
1. 稲葉佳江他編「看護ヘルスアセスメント」（メヂカルフレンド社） 2. 雄西智恵美他編「周手術期看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 3. 下正宗編「エビデンスに基づく検査データ活用マニュアル 改訂第3版」（学研メディカル秀潤社） 4. 阿曾洋子編「基礎看護技術 第7版」（医学書院） 5. 深井喜代子編「基礎看護技術Ⅱ」（メヂカルフレンド社） 6. 日本糖尿病学会編「糖尿病治療の手引き」（南江堂） 7. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（医学書院） 8. 小松浩子他「系統看護学講座別巻 がん看護学」（医学書院）	
学生に対する評価	
定期試験80%、提出物20%	

授業科目名： 成人看護活動論Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：伊藤円、小野善昭、 藤井瑞恵 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 成人看護実習に必要な基盤となる知識・技術・態度を身につけることができる。 2. 意図的な情報収集を行うことができ、得られた情報を整理し対象理解ができる。 3. 得られた情報を調べた内容と複合的に関連させ、他者に伝わるアセスメントが記述できる。 4. 情報と情報を結び付けて描画し、対象を全体的に捉えることができる。 5. 対象に合った個別性のある具体的な看護計画を立案することができる。 6. 気管内吸引、体位ドレナージ、止血法を理解し実践できる。 7. 透析を必要とする人の看護を理解することができる。			
授業の概要			
成人期にある対象の紙上事例をもとに、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、この科目の学びを成人看護実習Ⅰ・Ⅱ、外来看護実習で活用できるようになることを目指し、患者・家族の対象理解を深めるための思考過程を整え、看護問題を解決するための看護実践能力の基盤を培う。なお、看護実践能力については透析看護、気管内吸引、体位ドレナージ、止血法の理解も深める。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：成人期にある患者・家族の看護過程の展開：アセスメント①（担当：小野善昭） 1. ガイダンス（科目の目的、方法、評価、成人看護実習との関連） 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. アセスメント			
第2回：看護過程の展開：アセスメント②（担当：小野善昭） 1. アセスメントの振り返り 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. 関連図の書き方			
第3回：看護過程の展開：アセスメント③、関連図①（担当：小野善昭） 1. 全体像の共有、他者への説明 2. 関連図の描画の視点			
第4回：看護過程の展開：関連図②（担当：小野善昭） 1. 関連図の共有、他者への説明 2. 看護問題の明確化			
第5回：看護過程の展開：看護計画の立案①（担当：伊藤円） 1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 目標、期待される結果と看護の関連を共有、他者への説明			
第6回：看護過程の展開：看護計画の立案②（担当：伊藤円） 1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 次回シミュレーションのガイダンス			
第7回：看護過程の展開：シミュレーション観察・報告①（担当：伊藤円） 事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。			
第8回：看護過程の展開：シミュレーション観察・報告②（担当：伊藤円） 事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。			
第9回：呼吸を整える援助①（担当：伊藤円） 1. 一時的吸引の方法とその適応 2. 気管内吸引の実際			
第10回：呼吸を整える援助②（担当：伊藤円） 1. 体位ドレナージの目的とその適応 2. 体位ドレナージの方法とドレナージされる肺区域 3. 体位ドレナージの実際			
第11回：慢性腎臓病を抱えて生活する人の透析看護（担当：藤井瑞恵） 1. 血液透析を必要とする人の特徴 2. 血液浄化の実際 3. 血液透析を必要とする人の看護			
第12回：診療・処置時の看護技術：救急処置における止血法（担当：小野善昭） 1. 出血の種類と出血をきたす病態			

2. 一次的止血法（直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、止血帯法など） 3. 一次的止血法の実際 第13回：看護過程の展開：シミュレーション生活援助 1（担当：伊藤円） 事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 第14回：看護過程の展開：シミュレーション生活援助 2（担当：伊藤円） 事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 第15回：看護過程：評価、修正（担当：小野善昭） 看護過程の振り返り、まとめ、成人看護実習Ⅰ・Ⅱに向けた準備	テキスト 1. 野崎真奈美他編「成人看護学 成人看護技術」（南江堂） 2. 池上徹他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」（医学書院） 3. 北川雄光他編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」（医学書院） 4. 鈴木久美他編「成人看護学 慢性期看護」（南江堂） 参考書・参考資料等 科目の中で適宜紹介する。 学生に対する評価 目標に沿って、提出物で総合的に評価する。提出物は期限、提出方法を遵守する。提出期限に遅れたものは評価の対象としない。提出物の配点は、アセスメント40%、関連図 20%、看護計画 20%、シミュレーション 20%。詳細はガイダンス時に説明する。
--	--

授業科目名： 成人看護実習Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野善昭、伊藤円 、藤井瑞恵 担当形態：複数
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
急性期にある患者・家族を多側面からアセスメントし、患者・家族の健康段階に応じた知識・技術・態度を養うことを目的としている実習である。実習の目標は以下のとおりである。				
1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を理解できる。				
2. 急性期（急性疾患、周手術期、慢性疾患の急性増悪等）における患者の健康上の課題をとらえ、看護過程を展開することができる。				
3. 患者・家族を生活者の視点でとらえ、回復促進のための援助ができる。				
4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。				
5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。				
6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。				
授業の概要				
急性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開する実習である。特に、アセスメントでは身体侵襲が患者に及ぼす影響について理解を深めるとともに、心身の侵襲を最小限にし、回復のための援助計画を立案し、可能な限り実践を行う。実践した内容を振り返り、計画の修正やさらなる実践など看護過程を展開していく。				
実習方法				
1週目	月	病棟1日目：病院・病棟オリエンテーション、患者紹介、受け持ち同意、情報収集		
	火	病棟2日目：情報収集・整理、看護実践への参加		
	水	学内：受け持ち患者に関連する学習、看護技術の確認		
	木	病棟3日目：情報整理・統合、看護実践への参加		
	金	病棟4日目：看護問題の明確化、初期看護計画立案		
2週目	月	病棟5日目：看護計画立案、看護実践、評価、修正		
	火	病棟6日目：看護実践、評価、修正		
	水	病棟7日目：看護実践、評価、修正		
	木	病棟8日目：看護実践、評価、修正、最終カンファレンス		
	金	学内：記録の整理、最終評価面談、実習記録提出		
テキスト				
これまで学修した、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱのテキストや配布資料				
参考書・参考資料等				
これまで学修した、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱの配布資料				
学生に対する評価				
実習要項に記載の評価表に基づき、実習中の実践状況や実習記録などから総合的に評価する。				
なお、評価基準は別途作成したルーブリック表を使用する。				

授業科目名： 成人看護実習Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤井瑞恵、伊藤円 、小野善昭
				担当形態：複数
科 目		養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
成人期にある患者・家族が、疾患を抱えながら生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える、心身ならびに生活の営みへの影響を理解するとともに、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。				
1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を統合的に理解できる。				
2. 慢性的に経過する疾患を抱える患者・家族の看護上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。				
3. 看護実践における人間関係形成の重要性を認識し、相互に成長することの意味を深め、援助的人間関係を形成できる。				
4. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。				
5. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。				
授業の概要				
慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開する実習である。特にライフサイクルや価値観を的確に把握し、疾患と生活を統合して対象理解を深める。さらに医療施設から在宅への移行を視野に入れ、セルフケアを続けるための援助計画を立案し、可能な限り実践を行う。実践した内容を振り返り、計画の修正やさらなる実践など看護過程を展開していく。				
実習方法				
1週目	月	病棟1日目：病院・病棟オリエンテーション、患者紹介、受け持ち同意、情報収集		
	火	病棟2日目：情報収集・整理、看護実践への参加		
	水	学内：受け持ち患者に関連する学習、看護技術の確認		
	木	病棟3日目：情報整理・統合、看護実践への参加		
	金	病棟4日目：看護問題の明確化、初期看護計画立案		
2週目	月	病棟5日目：看護計画立案、看護実践、評価、修正		
	火	病棟6日目：看護実践、評価、修正		
	水	病棟7日目：看護実践、評価、修正		
	木	病棟8日目：看護実践、評価、修正、最終カンファレンス		
	金	学内：記録の整理、最終評価面談、実習記録提出		
テキスト				
これまで学修した、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱのテキストや配布資料				
参考書・参考資料等				
これまで学修した、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱの配布資料				
学生に対する評価				
実習要項に記載の評価表に基づき、実習中の実践状況や実習記録などから総合的に評価する。				
なお、評価基準は別途作成したルーブリック表を使用する。				

授業科目名： 小児看護学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：河崎和子 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 小児保健医療の歴史的変遷と小児看護の理念および役割を説明できる。 2. 小児看護を支える法的根拠および小児医療における子どもの権利について説明できる。 3. 成長・発達の概念と発達課題および小児各期の発達の特徴とその評価方法を説明できる。 4. 現代社会における子どもと家族の健康問題について環境との相互作用から説明できる。 5. 子どもと家族の健康の維持・増進に向けた支援方法を説明できる。			
授業の概要			
本科目では、家族・社会のなかで生活する小児の成長・発達、発達課題、生育環境、権利擁護を概観し、健全な成長・発達と基本的生活習慣、健康増進のための看護における小児看護の役割を理解する。また、小児の健康諸課題を解決するために、小児とその家族との人間関係成立・発展の方法、成長・発達過程を促進する方法、生活過程を支援する方法について理解する。さらに小児を取り巻く保健医療福祉メンバーや教育関係者、教育機関や福祉関係機関等との連携・協働のあり方について理解する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：小児保健医療と小児看護の変遷と現状 1. ガイダンス 2. 小児看護の対象と目的・役割について 3. わが国における小児保健医療および小児看護の歴史 4. 子ども観の歴史			
第2回：小児看護における理論 1. ボウルビィの愛着理論 2. ピアジェの認知発達理論 3. エリクソンの自我発達理論			
第3回：小児医療における子どもへの倫理的配慮と生命倫理 1. 子どもの意思決定 2. 子どもの権利擁護 3. 子どもの意思決定・権利擁護を支える看護 4. 小児医療における生命倫理			
第4回：子どもの健康な生活を支える法・制度 1. 子どもに関する保健統計 2. 子どもの保健・福祉に関する政策と法・制度 3. 子どもの健康増進のための社会資源の活用 4. 子どもの教育と制度 5. 学校保健の施策			
第5回：予防接種の意義と予防接種法 1. 予防接種の意義 2. 定期接種と任意接種 3. 小児期に特徴的な感染症			
第6回：子どもの成長・発達の基礎知識 1. 子どもの成長・発達 2. 形態・機能的成長・発達 3. 心理・社会的成長・発達 4. 成長・発達の評価			
第7回：新生児～乳児期の特徴と支援 1. 乳児期の特徴と支援			
第8回：幼児期の特徴と支援 1. 形態的機能発達 2. 機能的発達 3. 心理・社会的発達 4. 子どもと家族の日常生活への支援 5. 幼児期に起こりやすい健康問題と支援			
第9回：学童期の特徴と支援 1. 形態的機能発達 2. 機能的発達 3. 心理・社会的発達 4. 子どもと家族の日常生活への支援 5. 学童期に起こりやすい健康問題と支援			
第10回：思春期の特徴と支援 1. 形態的機能発達 2. 機能的発達 3. 心理・社会的発達 4. 子どもと家族の日常生活への支援 5. 思春期に起こりやすい健康問題と支援			
第11回：身体・発達障害のある子どもと家族への支援 1. 身体障害のある子どもと家族への支援 2. 発達障害のある子どもと家族への支援 3. 小児の在宅看護の役割と機能			

第12回：健康問題を抱える子どもと家族への支援

1. 心の問題を抱える子どもと家族への支援
2. 虐待を受けた子どもと家族への支援

第13回：外来における子どもと家族の看護

1. 外来を受診する子どもと家族の特徴
2. 小児科外来の特徴
3. 小児科外来における看護の役割

第14回：小児の事故防止と安全教育

1. 小児の死亡原因・小児の発達段階と事故要因
2. 事故防止と安全教育

第15回：災害を受けた子どもと家族の看護

1. 災害時の子ども及び家族の看護
2. 東日本大震災における対応の実際

定期試験

テキスト

1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学Ⅰ改訂第4版」（南江堂）
2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護学Ⅱ改訂第4版」（南江堂）

参考書・参考資料等

1. 服部祥子「生涯人間発達論」（医学書院）
2. 中野光編「子どもの権利条約」（岩波ジュニア新書）
3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」（メディックメディア）
4. 日本子ども家庭総合研究所「日本子ども資料年鑑」（KTC中央出版）

学生に対する評価

定期試験50%、提出物50%

授業科目名： 小児看護活動論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：河崎和子、 佐々木めぐみ 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 健康問題や健康障害および入院が、小児とその家族に及ぼす影響について理解する。 2. 様々な健康レベルにある小児とその家族への支援方法について理解する。 3. 小児を対象とした看護過程の展開方法について理解する。			
授業の概要			
小児の主要な健康障害について理解し、その診断・治療過程にある小児への援助方法について講義をとおして学ぶ。また、演習では健康障害を持つ小児を抱える家族との関係形成の方法や援助方法についても学ぶ。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：入院における子どもと家族の看護（担当：河崎和子） 1. ガイダンス 2. 子どもの入院の特徴 3. 入院する子どもの特徴 4. 入院時の子どもと家族の看護 5. 入院中の子どもと家族の看護			
第2回：子どもに特徴的な症状と看護①（担当：河崎和子） 1. いつもと違う 2. 痛みを伴う子どもと家族への看護 3. 発熱を伴う子どもと家族の看護			
第3回：子どもに特徴的な症状と看護②（担当：佐々木めぐみ） 1. 脱水 2. 嘔吐 3. 下痢			
第4回：子どもに特徴的な症状と看護③（担当：河崎和子） 1. 発疹 2. 呼吸困難 3. けいれん			
第5回：手術を受ける子どもと家族の看護とプレパレーション（担当：河崎和子） 1. 子どもの手術の特徴 2. 手術を受ける子どもと家族の看護 3. プレパレーション			
第6回：手術を受ける子どもと家族の看護とプレパレーション②（担当：河崎和子） ショート事例を用いて手術を受ける子どもに必要なプレパレーションを検討する			
第7回：状況別にみる子どもと家族の看護（担当：佐々木めぐみ） 1. 活動制限が必要な子どもと家族の看護 2. 隔離が必要な子どもと家族の看護			
第8回：事例でみる子どもと家族の看護①（担当：河崎和子） 1. 腸重積症のある子どもと家族の看護 2. 直腸肛門奇形（鎖肛）のある子どもと家族の看護			
第9回：事例でみる子どもと家族の看護②（担当：河崎和子） 1. 気管支喘息のある子どもの家族と看護 2. 食物アレルギーのある子どもの看護 3. アトピー性皮膚炎のある子どもと家族の看護			
第10回：事例でみる子どもと家族の看護③（担当：佐々木めぐみ） 1. 急性リンパ性白血病のある子どもと家族の看護 2. 髄膜炎のある子どもと家族の看護 3. I型糖尿病のある子どもの家族と看護			
第11回：事例でみる子どもと家族の看護④（担当：河崎和子） 1. 低出生体重児の子どもと家族の看護 2. 呼吸窮迫症候群のある子どもと家族の看護 3. 脳性麻痺のある子どもと家族の看護			
第12回：事例でみる子どもと家族の看護⑤（担当：佐々木めぐみ） 1. 川崎病のある子どもの家族と看護 2. てんかんの子どもと家族の看護 3. 発育性股関節形成不全（股関節脱臼）のある子どもと家族の看護			
第13回：事例でみる子どもと家族の看護⑥（担当：佐々木めぐみ） 1. 膀胱尿管逆流症のある子どもと家族の看護 2. ネフローゼ症候群のある子どもの家族と看護 3. 二分脊椎（脊髄髄膜瘤）のある子どもと家族の看護			

第14回：終末期にある子どもと家族の看護 (担当：河崎和子)	
1. 子どもの死の概念 2. 終末期にある子どもと家族の心理 3. 終末期にある子どもと家族の看護 4. 子どもを亡くした家族の看護	
第15回：事例でみる子どもと家族の看護⑦/小児における看護過程の視点 (担当：河崎和子)	
1. 虐待を受けた子どもと家族の看護 2. 小児における看護過程の視点 1) アセスメントツールについて 2) 事例の提示 (事例紹介)	
定期試験	
テキスト	
1. 二宮啓子他「看護学テキストNiCE 小児看護学概論改訂第4版」(南江堂) 2. 今野美紀他「看護学テキストNiCE 小児看護技術改訂第4版」(南江堂)	
参考書・参考資料等	
1. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院) 2. 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂第2版」(インターメディカ) 3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」(メディックメディア) 4. 添田啓子他「看護実践のための根拠がわかる小児看護技術」(メヂカルフレンド社)	
学生に対する評価	
目標の到達状況を下記の1・2の視点から総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
1. 定期試験 70% 2. 講義におけるワークシート 30%	

授業科目名： 小児看護活動論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 河崎和子、佐々木めぐみ 担当形態：複数・オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 既習の知識に基づき、小児看護技術の目的、必要物品、実施手順、留意点を説明することができる。 2. 事例を通して、小児の障害や疾病に関連した看護技術の留意点を説明できる。 3. 小児の特徴を理解し、基本的な看護技術が実施できる。 4. 健康上の問題を有する事例に対して、状況に応じた看護を明確にすることができる。 5. 医療的ケアが必要な子どもと家族への在宅療養に向けた援助について説明できる。			
授業の概要			
これまでの学内での学習内容を臨地実習で活用できることを目的とし、小児およびその家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を修得するために看護事例を使い、状況に応じた看護について演習をとおして学習する。また、保健医療福祉チームとの連携のあり方についても学習する。特に、教育機関や小児に関わる福祉機関等との連携・協働について学ぶ。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：子どものアセスメント技術①		（担当：佐々木めぐみ）	
1. ガイダンス 2. 子どもの成長・発達と健康状態に関連させたアセスメント技術 3. 子どもの問診、全身状態の把握、バイタルサイン測定、身体計測の実際			
第2回：演習：子どものアセスメント技術②		（担当教員全員）	
1. 問診 2. バイタルサイン測定、身体計測、全身状態の把握 3. 身体計測と計測値の評価 4. 得られた情報のアセスメント			
第3回：子どもの検査・処置技術①		（担当：佐々木めぐみ）	
1. 子どもの解剖・生理、成長・発達に関連させた検査・処置技術 2. 採血、採尿・導尿、骨髄穿刺・腰椎穿刺、与薬、吸引、酸素療法、抑制の実際			
第4回：演習：子どもの検査・処置技術②		（担当教員全員）	
1. 採尿 2. 与薬（輸液管理、吸入） 3. 吸引 4. 抑制			
第5回：演習：子どもの検査・処置技術②		（担当教員全員）	
1. 採尿 2. 与薬（輸液管理、吸入） 3. 吸引 4. 抑制			
第6回：子どもの日常生活援助技術①		（担当：佐々木めぐみ）	
1. 子どもの解剖・生理、成長・発達、障害や疾病に関連させた日常生活援助技術 2. 食事、清潔・衣生活、排泄、呼吸の援助技術、移動の実際			
第7回：演習：子どもの日常生活援助技術②		（担当教員全員）	
1. 経管栄養 2. 殿部洗浄、おむつ交換			
第8回：演習：事例に基づく看護の展開		（担当：佐々木めぐみ）	
1. 状況に応じた看護のトレーニング 事例1「発熱」「脱水」「下痢」			
第9回：演習：事例に基づく看護の展開		（担当：佐々木めぐみ）	
1. 状況に応じた看護のトレーニング 事例2「呼吸困難」「内服の拒否」			
第10回：演習：事例に基づく看護の展開		（担当：佐々木めぐみ）	
1. 状況に応じた看護のトレーニング 事例3「感染」「出血傾向」「貧血」			
第11回：演習：事例に基づく看護の展開		（担当教員全員）	
1. 健康上の問題を有する事例に対する状況に応じた観察 2. 事例の状況に応じた看護の明確化			

※設定された状況のなかで、模擬患児および家族に対して必要な観察を行い、判断と必要な看護について報告する。	
第12回：小児の救急救命処置技術（講義）	（担当：河崎和子）
1. 小児の救急 1) 一次救命処置 2) 二次救命処置	
第13回：小児の救急救命処置技術（演習）	（担当教員全員）
1. 気道確保 2. 人工呼吸 3. 胸骨圧迫	
第14回：医療的ケアが必要な子どもと家族への在宅療養に向けた援助①	（担当：河崎和子）
1. 退院支援の方向性 2. 退院に向けた支援・多職種との連携 3. 他機関との調整	
第15回：医療的ケアが必要な子どもと家族への在宅療養に向けた援助②	（担当：河崎和子）
1. 札幌市内療育施設のリサーチ 2. 札幌市の小児在宅サービスについてリサーチ 3. 発表	
テキスト	
二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論改訂第4版」（南江堂）	
今野美紀他「看護学テキストNiCE 小児看護技術改訂第4版」（南江堂）	
参考書・参考資料等	
山元恵子監修「写真でわかる小児看護技 改定第3版」（インターメディカ）	
山元恵子監修「写真でわかる小児看護技アドバンス 新訂第2版」（インターメディカ）	
鈴木康之・船橋満寿子監修「新訂版 写真でわかる重症心身障害児（者）のケア アドバンス」（インターメディカ）	
浅野みどり編「根拠と事故防止からみた 小児看護技術 第3版」（医学書院）	
高木永子監修「看護過程に沿った対症看護 第5版」（学研メディカル秀潤社）	
学生に対する評価：小テスト30点、提出物70%	

授業科目名： 小児看護実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：河崎和子、 佐々木めぐみ 担当形態：複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 受けもった子どもと家族（対象者）とのコミュニケーション・観察を通して子どもの健康状態と生活全般を把握し、看護を必要とする健康課題を解釈できる。 2. 明らかになった優先度の高い看護問題に対して看護計画を立案し、対象者の発達段階を考慮し実践できる。 3. 実践した看護が有効であったかを対象者の反応から評価し計画の修正ができる。 4. 実習生として子どもと家族の安全と人権に配慮し、自覚と責任をもち主体的に取り組むことができる。 5. 子どもと家族への看護を通して、医療チームにおける小児看護の専門性と自分の考えを考察できる。			
授業の概要			
小児期の健康課題・問題をもつ対象者と家族への看護実践能力を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題認識の4つの課題をもとに修得する。小児の成長発達と発達課題を理解し発達段階に応じた日常生活への援助を学ぶ。病院実習においては健康障害が小児とその家族にもたらす影響を理解し、家族との関係形成を含む看護実践の基礎的能力を修得する。また、小児を取り巻く保健・医療・福祉および教育の連携の重要性を学び、療育医療およびチームにおける看護の役割を学ぶ。			
実習方法			
実習は2週間(1週目：医療機関、2週目：福祉施設)行う			
1週目 月 学内：看護技術及び小児看護に関する知識の確認 火 医療機関1日目：機関オリエンテーション、情報収集 水 医療機関2日目：情報収集・整理、看護計画立案、看護実践への参加 木 医療機関3日目：情報整理・統合、看護実践への参加 金 医療機関4日目：情報整理・統合、医療機関カンファレンス			
2週目 月 学内：看護技術及び小児看護に関する知識の確認 火 福祉施設1日目：施設オリエンテーション、情報収集 水 福祉施設2日目：情報収集・整理・統合、看護実践への参加 木 福祉施設3日目：情報整理・統合、福祉施設カンファレンス 金 学内：記録の整理、最終カンファレンス、実習記録提出			
テキスト			
1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学概論改訂第4版」（南江堂） 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護技術改訂第4版」（南江堂）			
参考書・参考資料等			
1. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」（医学書院） 2. 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術 改訂第2版」（インターメディカ） 3. 医療情報科学研究所「病気がみえる小児科」（メディックメディア） 4. 添田啓子他「看護実践のための根拠がわかる小児看護技術」（メヂカルフレンド社）			
学生に対する評価			
実習目標到達度を評価基準に基づき評価し、60 点以上を合格とする。			

授業科目名： 母性看護学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：齋藤早香枝 担当形態：単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 母性看護の概念、リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護におけるヘルスプロモーションについて説明できる。			
2. 母性看護の対象の身体的、心理・社会的特性について説明できる。			
3. 人間の性と生殖について説明できる。			
4. 女性のライフサイクル各期における対象の特徴と課題について説明できる。			
5. 母性看護の歴史的変遷や母性看護の現況について説明できる。			
6. 母性看護に関する法律および母子保健施策について説明できる。			
7. 母性意識の発達、母親役割獲得過程、家族関係、子育てについて考えることができる。			
授業の概要			
女性のライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）における身体・心理・社会的な健康状態の特徴と健康課題およびその看護について理解し、母性看護におけるヘルスプロモーションについて学ぶ。また、母性看護と生命倫理、母性看護の歴史的変遷について理解する。さらに、母性保健の変遷と動向を、性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブヘルス・ライツ）の視点からグローバルに学び、現代の母子を取り巻く社会情勢や環境、政策、制度、法律を理解し母性看護の課題や役割を考える。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：母性看護に関連する概念と理論（1）母性をめぐる定義、親になることと母性			
第2回：母性看護に関連する概念と理論（2）リプロダクティブヘルス / ライツ、母性看護におけるヘルスプロモーション			
第3回：セクシュアリティの特徴、発達			
第4回：女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化			
第5回：母性看護における倫理			
第6回：母性看護の歴史的変遷と近年の動向、母子保健統計			
第7回：母子保健施策			
第8回：ライフサイクルにおける女性の健康と看護（1）思春期			
第9回：ライフサイクルにおける女性の健康と看護（2）成熟期①			
第10回：ライフサイクルにおける女性の健康と看護（3）成熟期②			
第11回：ライフサイクルにおける女性の健康と看護（4）成熟期③			
第12回：ライフサイクルにおける女性の健康と看護（5）更年期			
第13回：リプロダクティブヘルスケア（1）性感染症の予防			
第14回：リプロダクティブヘルスケア（2）周産期の死に対する支援			
第15回：リプロダクティブヘルスケア（3）DVと性被害に対する支援			
定期試験			
テキスト：			
1. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学概論」（医学書院）			
2. 森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」（医学書院）			
参考書・参考資料等			
講義の中で随時紹介する。			
学生に対する評価：			
定期試験 90%、母性看護領域の今日的課題に対するレポート 10%			

授業科目名： 法と人権	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：神元隆賢 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 日本国憲法のうちの人権論に関する主要な判例および学説を理解したうえで、社会や世論で問題（話題）とされている事象について、現代憲法学の観点から議論をすることができる。 2. 医療人としての職務と人権、そして法との関わりを、具体的な事例を通じて理解したうえで、法的・倫理的課題を克服するための一つの視角を得る。			
授業の概要			
職業人としての態度・志向性を理解するための基礎として、社会生活の中での法の役割・機能、義務と責任について理解し、法が人々の生活とどう関わっているのかについて学修する。 日本国憲法を通して「法とは何か」、「政治とは何か」を考える手がかりを得る。また、人権を守るとはどういうことなのか、現代の日本社会において実際に生起している人権に関する諸問題を取り上げ学修することにより、人権擁護の重要性について認識するとともに、人権擁護に積極的に努める態度を身につける。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：ガイダンス、法学入門（1） ・授業の概要、方法、成績評価方法の説明　・法とは何か			
第2回：法学入門（2） ・憲法、民法、刑法の機能　・判例と学説			
第3回：外国人の権利 ・外国人に参政権（選挙権、被選挙権）を認める余地はあるか			
第4回：プライバシー権 ・プライバシー権保護の重要性　・名誉毀損とは　・「宴のあと」事件			
第5回：表現の自由（1）プライバシー権との調和 ・名誉毀損における真実性の証明による不処罰			
第6回：表現の自由（2）ポルノの権利 ・わいせつ文書等頒布罪　・許容される性表現のx限界			
第7回：法の下の平等 ・平等権の意味　・尊属殺人罪違憲判決事件			
第8回：信教の自由 ・神戸高専剣道実技拒否事件　・オウム真理教解散命令事件			
第9回：生存権 ・「健康で文化的な最低限度の生活」とは			
第10回：教育権 ・家永教科書裁判　・旭川学テ事件			
第11回：死刑制度 ・死刑存置論　・死刑廃止論			
第12回：人の始期・終期 ・胎児と人、人と死体を区別する法的基準 ・人はいつから「人」として法的に保護されるか			
第13回：自己決定権（1）被害者の同意 ・自殺、自殺関与、同意殺人（死に同意した者の殺害）の違法性 ・同意傷害（負傷に同意した者の傷害）における傷害罪の成否 ・医療行為と傷害			
第14回：自己決定権（2）安楽死・尊厳死 死期が切迫した患者の苦痛を除去するための殺害、延命治療中止は許容されるか			

第15回：授業のまとめ ・これまでの総括 ・学期末試験に向けて ・小テスト 定期試験
テキスト 初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門（第6版）」（有斐閣アルマ、2020年）
参考書・参考資料等 1. 芦部信喜（高橋和之補訂）「憲法（第7版）」（岩波書店、2019年） 2. 戸松秀典「憲法」（弘文堂、2015年）
学生に対する評価 定期試験60%、レポート20%、小テスト20%

授業科目名： スポーツ理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：大浦 浩 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 「健康とスポーツ（体力）との関連」や「栄養と睡眠」について理解する。 2. 「心身のつながりとスポーツとの関連」や「動機づけ」のメカニズムについて理解する。 3. 「トレーニング理論」と「運動プログラムの組み方」や「コンディショニングのセルフチェック法」について理解する。 4. 「スポーツを取り巻く社会変化」について理解する。			
授業の概要			
この科目では、スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践および健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を育てることを目的とする。具体的内容として、①社会の変化と体育・スポーツの関連性、②運動技能の構造と運動の学び方について、③体ほぐしの意義と使い方、④体力トレーニングの内容と行い方、⑤運動と安全教育について取りあげる。なお、運動と学習とのかかわりの深い保健に関する理論についても適宜ふれることとする。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：・ガイダンス ・「こころとからだ」のつながり 講義の目的と内容構成、受講の諸注意、評価方法、講義の進め方について理解する。 スポーツ理論を学ぶ上で基本となる「心身の関連」について理解する。			
第2回：・スポーツと動機づけについて いわゆる“モチベーション”の正体を知り、その維持向上のメカニズムを学習する。スポーツ活動における成功（失敗）体験が人に及ぼす影響や自己コントロール法について理解する。			
第3回：・フィードバックについて 運動学習における「フィードバック構造」について学習し、運動上達のメカニズムを理解する。フィードバックの効用を実験を通して体感する。			
第4回：・コーチングについて コーチングの基礎を学習し、医療従事者、運動指導者に限らず、誰もが一度は遭遇する「他者を“コーチング”する場面」で力を発揮できるように準備する。			
第5回：・コンディショニングの基本について より良いスポーツ活動のために必要なコンディショニングは、心身のセルフチェックを行うことから始まる。			
第6回：・トレーニング理論と運動処方について トレーニングの原則（運動－栄養－休養（超回復））について学習し、トレーニング計画作成の基本を理解する。			
第7回：・各年代の体力特性および適正な運動処方について 年代別の体力特性について触れ、ジュニア期を中心に、人の発育発達に応じた適切な運動選択の方法について学習する。			
第8回：・スポーツと社会（オリンピック、ドーピング、人種、DNA） ・総括 スポーツに纏わる様々な社会問題を通して、今後のスポーツ界はどうなっていくのか、56年ぶりの自国開催となった「東京五輪 2020」を振り返りながら考察する。			
定期試験			
テキスト			
授業においてプリントを配布する。			

参考書・参考資料等

1. 杉原隆著「運動指導の心理学」（大修館書店）
2. (特非) 日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【理論編】」
(ベースボールマガジン社)
3. (特非) 日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【実践編】」
(ベースボールマガジン社)

学生に対する評価

定期試験100%

授業科目名： スポーツ科学と運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大浦 浩
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 医療人として豊かな人間性、社会生活に必要なマナーや社会性を身につける。			
授業の概要 身体活動を通して運動負荷刺激が心身の健康におよぼしている影響について理解し、運動やスポーツが、健康管理に有効な一手段であることを体得する。また、実際に各種運動をすることによる楽しさにふれ、生涯にわたって運動に親しむ態度を養うとともにチームワーク力を身につける。さらに、心身機能の維持や向上などのスポーツ運動の効果を理解し、生活習慣病予防等も考慮した運動習慣を身につける。			
授業計画（1コマ90分） 第1回：ガイダンス レクリエーション 授業内容と目的、授業内容の構成、受講の諸注意の説明、評価方法について理解する。 軽い運動で身体をほぐす。 第2回：ソフトバレーボール① 基本ルールについて ボール操作とコントロール 第3回：ソフトバレーボール② 基本練習～攻撃編 第4回：ソフトバレーボール③ 基本練習～守備編 第5回：ソフトバレーボール④ リーグ戦① 第6回：ソフトバレーボール⑤ リーグ戦② 第7回：ソフトバレーボール⑥ リーグ戦③ 第8回：バドミントン① 各ストロークの基本練習① ハーフコートでシングルスゲーム練習 第9回：バドミントン② 各ストロークの基本練習② ハーフコートでシングルスゲーム練習 第10回：バドミントン③ ルールの説明 ダブルスゲーム 第11回：バドミントン④ ダブルスゲーム 第12回：バドミントン⑤／生涯スポーツ（ボッチャ①） 生涯スポーツについて説明、ボッチャのルール説明 第13回：バドミントン⑥／ボッチャ② ダブルスゲーム 第14回：バドミントン⑦／ボッチャ③ ダブルスゲーム 第15回：まとめ ソフトバレーボール、バドミントンゲーム 定期試験			
テキスト 授業において、適宜配布する。			

参考書・参考資料等 授業において、適宜配布する。
学生に対する評価 提出物30%、その他70%

授業科目名： 英語Ⅰ（基礎）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松尾文子 大西三佳子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。			
授業の概要			
平易な英文を扱い、英語表現力の理解・英語による表現演習を通して英語の基礎的な知識（基本的な英文構成・基礎的語彙や成句など）を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の相互関係に配慮しつつ、「読む・書く」能力の向上に力点を置く。英語と日本語の表現特性に留意して、読解力を高めるためのリーディング・スキルを修得する。また、英語読解力や英文作成において、基本単位となるパラグラフの構成について理解を深め、纏まった内容の英文を作成するための参考とする。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：ガイダンス 本科目の目的・目標・学習内容と学習方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。			
第2回：Unit 1 May I Help You? 1. reading（初診受付の流れを学ぶ①） 2. grammar（時制） 3. writing（基本的な重要構文）			
第3回：Unit 2 Where Do You Live? 1. reading（初診受付の流れを学ぶ②） 2. grammar（不定詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第4回：Unit 3 Do You Have an Insurance Card? 1. reading（初診受付の流れを学ぶ③） 2. grammar（受動態） 3. writing（基本的な重要構文）			
第5回：Unit 4 What Department Do You Want to Visit? 1. reading（患者を案内する） 2. grammar（冠詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第6回：Unit 6 Take One Tablet Three Times a Day 1. reading（薬の処方について学ぶ） 2. grammar（前置詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第7回：前半のまとめ学習 グループ活動確認・「前半のまとめ」を学習する。			
第8回：中間復習ドリル（Units 1, 2, 3, 4, 6） これまで学習した内容の定着度をチェックする。			
第9回：Unit 7 You’ re Suffering from Hay Fever 1. reading（診察の流れを学ぶ） 2. grammar（関係詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第10回：Unit 8 What Kind of Pain Is It? 1. reading（外科診療の流れを学ぶ） 2. grammar（接続詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第11回：Unit 10 Let’ s Check Your Pulse and Blood Pressure 1. reading（診察前の計測を行う） 2. grammar（動名詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第12回：Unit 11 It’ s Going to Be a Long Day! 1. reading（患者に検査を勧める） 2. grammar（分詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第13回：Unit 13 You Need to Control Your Diet 1. reading（患者に入院を勧める） 2. grammar（助動詞） 3. writing（基本的な重要構文）			
第14回：後半まとめ学習 グループ活動確認・「後半のまとめ」を学習する。			
第15回：期末復習ドリル（Units 7, 8, 10, 11, 13） これまで学習した内容の定着度をチェックする。			
定期試験			
テキスト			
Akihiko Higuchi and John Tremarco「CHECK-UP!」(KINSEIDO, 2023)			

参考書・参考資料等

授業において、適宜配布する。

学生に対する評価

定期試験50%、小テスト20%、グループ活動20%、その他10%

授業科目名： 英語Ⅱ（会話）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： David Flenner、Peter Reemst Coxfond Richard Michael 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. Building confidence in order to communicate with patients in English （英語で患者さんとコミュニケーションをとるための自信をつける。） 2. Improving students' knowledge of language used in a clinical setting （臨床現場で用いられる言葉を学ぶ。） 3. Building an awareness of the needs of English speaking patients （英語を話す患者さんのニーズを理解する。）			
授業の概要			
「英語Ⅰ」での学修基盤を引き継ぎ、「聞く・話す」という日常的英会話の基礎能力の修得を図り、英語運用能力の強化を目指す。英語の音声特徴を理解した上で、シャドーイング（shadowing）、ロール・プレイ（role-playing）等を取り入れたトレーニングを通して英語発音に習熟し、英語聴解能力を発展させる。また、学生が持つ潜在的な英語の理解力・表現能力を活用した英語表現演習をペア、または、グループ毎で行い、学生自身の日常生活やいくつかのトピックについての意見を英語で表現することを学修する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：Orientation Classroom Language and Instruction（授業で用いる英語と指導について）			
第2回：Unit 1 Meeting a New Patient（新たな患者さんとの出会い）			
第3回：Unit 2 Talking About Symptoms（症状について話す）			
第4回：Unit 3 In-Patient Orientation（入院患者向けオリエンテーション）			
第5回：Unit 4 Doing the Rounds（病棟や病室内の見回りを行う）			
第6回：Unit 5 Explaining Medication（薬の説明を行う）			
第7回：Unit 6 More Symptoms（多くの症状について）			
第8回：Unit 7 Review/Test1:Units1-7（まとめ・復習 復習テスト単元1-7）			
第9回：Unit 8 Accidents and Injuries（事故とけが）			
第10回：Unit 9 Patient Examination（患者さんの検査）			
第11回：Unit 10 Taking a Medical History（患者さんの病歴を聞き取る）			
第12回：Unit 11 Lifestyle and Diet（ライフスタイルと食生活）			
第13回：Unit 12 Explaining Hospital Tests（病院で行う検査の説明）			
第14回：Unit 13 Review（まとめ）			
第15回：Review/Test2（まとめ・復習/ 復習テスト単元8～13）			

Units8-13
定期試験
テキスト Simon Capper「Bedside Manner Beginner(New Edition)」(Perceptia Press)
参考書・参考資料等 授業において、適宜配布する。
学生に対する評価 定期試験60%、提出物30%、その他10%

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：三瀬敬治 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 情報倫理の基礎知識を説明できる。 2. 情報セキュリティの基礎知識を説明できる。 3. 主なICTの基礎知識を説明できる。 4. 情報加工の基礎を実行することができる。 5. 情報発信の基礎を実行することができる。 6. 情報収集・分析の基礎を実行することができる。			
授業の概要			
疫学、保健統計を学ぶ基盤となる統計学の基礎とデータの分析について学ぶ。具体的には基本的なデータの種類とそれに合った統計分析法、コンピューターによる統制処理法を学ぶ。また、データのまとめ方を知るとともに、各種データの確率分布と推定、統計学的検定などの統計処理、分析方法、データベースの作成について演習する。また数量的データ・質的データの収集方法や分析方法について学修する。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：情報リテラシーについて 本科目の目的と構成、そして各回の位置づけを説明する。続いて、情報化社会の概要について解説する。			
第2回：情報倫理 情報や情報機器を正しく取り扱う上で遵守すべきルールやマナーについて解説する。			
第3回：コンピュータ コンピュータの機能と仕組みの基礎を説明し、ハードウェアとソフトウェア、情報の表現について解説する。			
第4回：デジタルデータの加工・編集 デジタルデータの種類について説明し、画像や音などのデータを加工・編集する方法の基礎を解説する。			
第5回：Webページの作成（1）HTML HTMLの基礎について説明し、Webページを作成するためのHTMLの書き方の基礎を解説する。			
第6回：Webページの作成（2）CSS 色やサイズ、レイアウトなどWebページの見栄え（スタイル）を指定するためのスタイルシート（CSS）の書き方の基礎を解説する。			
第7回：WebシステムとWebサービス インターネットでのWebページ利用の基盤となるWebシステムの仕組みについて解説する。また、SNSなどのコミュニケーション系Webサービスについても解説する。			
第8回：情報通信ネットワーク 情報通信ネットワークの成り立ちと、インターネットを実現する情報通信技術の基礎を解説する。			
第9回：情報セキュリティ 情報を管理する際や、PCやスマートフォンなどの情報機器を利用する際に起こりうる脅威とその対策について解説する。			
第10回：ビッグデータとクラウド ビッグデータとクラウドに関わる情報通信技術の基礎と、それらの技術が用いられているサービスについて解説する。			
第11回：医療とICT 医療において活用されている情報通信技術について解説する。			
第12回：情報収集・分析の実践（1）Webアンケート調査			

アンケート調査の基礎について説明する。また、Web上で利用できるアンケートページの作成方法と、Webアンケートで収集した回答結果をPCに取り込む方法を解説する。 第13回：情報収集・分析の実践（2）アンケートの作成 調査したいテーマを決めて、アンケートのWebページを作成してもらう。 第14回：情報収集・分析の実践（3）アンケートの実施と集計・分析 作成したWebアンケートページを用いて、実際にアンケート調査を行ってもらう。続いて、回答結果をPCに取り込み、集計および分析を行い、結果報告のためのプレゼン資料を作成してもらう。 第15回：情報収集・分析の実践（4）アンケート結果の報告 作成したプレゼン資料を用いて、実施したアンケート調査の結果報告を行ってもらう。 定期試験	テキスト 授業時において、資料を配付する。
参考書・参考資料等 1. 大内東編「文系学生がまなぶ情報学」（コロナ社） 2. 岡本敏雄監「改訂新版よくわかる情報リテラシー」（技術評論社） 3. 富士通エフ・オー・エム「情報モラル & セキュリティ〈改訂版〉」（FOM出版） 4. 千貫りこ「これからはじめるHTML & CSS」（技術評論社） 5. 豊田秀樹「紙を使わないアンケート調査入門」（東京図書）	学生に対する評価 レポート50%、提出物20%、その他30%

授業科目名： 情報処理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：三瀬敬治 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
1. PCの基礎的な使い方、電子メールやインターネットの活用法を習得する。 2. Word、Excel、PowerPointの基本的操作を習得する。			
授業の概要			
情報処理技術に関する基礎・基本を理解し、ワープロソフトを用いたレポートの作成や表計算ソフトを用いたデータ計算など、情報処理能力を確実に修得する。また、情報コミュニケーションおよびネットワークに関する基礎・基本を理解し、パワーポイントによるプレゼンテーション資料の作成、インターネットの正しい活用による情報収集と配信、コミュニケーションなど、情報リテラシーを修得し、専門科目に適用できることを目指す。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：PCの基礎的な使い方 本科目の目的と構成について理解し、各回の位置づけを確認する。 授業で使用するPCの基礎的な操作方法（PCの起動と終了、マウス・キーボードの操作、ファイルの保存など）を学ぶ。			
第2回：電子メールの利用とタイピング 1. 電子メールの利用方法を習得する。 2. タイピングの方法を学ぶ。			
第3回：インターネットの活用とマナー 1. ブラウザを利用したインターネット検索の方法を学ぶ。 2. インターネットを使用する際のマナーを理解する。			
第4回：Wordの基本（1） 1. Wordの基礎知識を習得する。 2. 文字入力の仕方を理解する。			
第5回：Wordの基本（2） 文書作成における基本的操作（文字のコピー・移動、配置、装飾、書式）を理解する。			
第6回：Wordの基本（3） グラフィック機能（オンライン画像、図、図形、ワードアート）を使用した文書作成の仕方を理解する。			
第7回：Wordの基本（4） 1. 表を使用した文書作成の仕方を理解する。 2. 学習したWordの機能を活用して文書を作成する。			
第8回：Excelの基本（1） 1. Excelの基礎知識を習得する。 2. データ入力の仕方を理解する。			
第9回：Excelの基本（2） 1. 表の作成の仕方を理解する。 2. 表計算機能（四則計算、関数など）を理解する。			
第10回：Excelの基本（3） グラフ（棒グラフ、円グラフなど）の作成の仕方を理解する。			
第11回：Excelの基本（4） 1. データベース機能を理解する。 2. 学習したExcelの機能を活用してデータ処理を行う。			
第12回：PowerPointの基本（1） 1. PowerPointの基礎知識を習得する。 2. スライド作成の基礎を理解する。			
第13回：PowerPointの基本（2） テキスト、オンライン画像、図、図形、表、SmartArtを使用したスライドの作成の仕方を理解する。			
第14回：PowerPointの基本（3） 画面切り替え、アニメーション、スライドショーの機能を理解する。			
第15回：PowerPointの基本（4）			

1. プレゼンテーションのやり方の基本を理解する。 2. 学習したPowerPointの機能を活用して、プレゼンテーション用の資料を作成する。 定期試験
テキスト 授業時において、資料を配付する。
参考書・参考資料等 富士通エフ・オー・エム「よくわかるWord2019 & Excel2019 & PowerPoint2019」 (FOM出版)
学生に対する評価 レポート100%

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 加藤 隆・庄井良信・明田 川知美 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
教育に関する歴史や思想を概観し、教育学的な視点から人間の特質や人間らしさの本質を把握し、人間の発達を社会の発展との関連で捉え、教育の本質と目的を学修する。これからの教育の在り方を考えるために、歴史の中での教育、学校教育の意義、高学歴社会の現実と課題、社会生活の豊かさと教育の課題、国際化の時代と教育、現代社会と教師など、現代の教育活動が直面する諸問題を理解する。			
授業の概要			
近代教育思想の精髓を欧米・日本ともに紹介し、明治以降の教育課題と方法の模索を概観する。現代に至るまでの人間像と教育内容・学力観の変遷を示し、戦前・戦後の「新教育」の試みも取り上げる。学力低下問題、学校と地域・家庭との関わり、食育・環境教育等の必要を社会の動きと共に取り上げ、その理想の模索を伝える。これらを通して教育に可能なことを考えていく。折にふれて、意見交流の場を設ける。			
授業計画			
第1回(庄井)：教育の理念：現代に生きる教育思想：コメニウス、ペスタロッチ、デューイ他			
第2回(庄井)：教育の歴史 1：日本の公教育の開始から戦前まで：国作り・学校作りと人格の独立の葛藤（「学制」と福諭吉、夏目漱石、内村鑑三、他）			
第3回(庄井)：教育の歴史 2：日本の「新教育」と戦後の教育課程：新しい人格像と地域学校作りの模索			
第4回(庄井)：日本の課題：学力 1- 学習指導要領と変遷			
第5回(庄井)：グループ討議：戦後日本が目指した教育とは何であったか			
第6回(加藤)：日本の課題：学力 2- 学力低下問題、地域・家庭と学習意欲。各地の取り組み事例			
第7回(明田川)：日本の課題：総合的な教育主題ーキャリア教育・食育・環境教育・グローバル教育、他			
第8回(加藤)：まとめとグループ討議：教育の本質と教育の仕事を考える			
定期試験			
テキスト			
講義時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
1. よくわかる教育原理（ミネルヴァ書房） 2. 「小学校学習指導要領」（文部科学省）			
3. 「中学校学習指導要領」（文部科学省）			
学生に対する評価			
提 出 物：毎回講義終了に提出される振り返りシート 20%			
そ の 他：講義中に設ける討論の参加度や意欲態度 30%			
定期試験：授業全体の理解について評価する 50%			

授業科目名：教職概論		教員の免許状取得のための必修科目		単位数：2単位		担当教員名：加藤 隆、佐藤憲夫、菅野英人	
						担当形態：オムニバス	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
教職を目指す学生のための入門授業として、教職への理解を深めるとともに、自らが目指す教師の姿を具体的に描けることを目標とする、さらに、教師の立場から保護者への対応を考えることや地域との連携について学校全体として関わる視点の重要性を理解する。							
授業の概要							
教育の今日的課題と現状を学び、教職者としてのあるべき姿と社会的要請として求められる姿を学ぶ。さらに、現実の職務内容の広さと多忙煩雑さ、そこから得られる達成感など、多層的な視点から「教職」についての理解を深める授業とする。							
授業計画							
第1回：はじめに 本講義の概要とオリエンテーション なぜ教師を目指すのか（担当：加藤 隆）							
第2回：教職の意義（担当：加藤 隆）							
第3回：教職観の変遷と理想の教師像（担当：加藤 隆）							
第4回：教師と教員養成の歴史（担当：佐藤憲夫）							
第5回：教員の任用と服務①（担当：佐藤憲夫）							
第6回：教員の任用と服務②（担当：佐藤憲夫）							
第7回：教師の役割と仕事（担当：佐藤憲夫）							
第8回：校長・副校長・教頭の役割（「チーム学校運営」への対応を含む）（担当：佐藤憲夫）							
第9回：教育現場を知る（ケーススタディ）①（担当：菅野英人）							
第10回：教育現場を知る（ケーススタディ）②（担当：菅野英人）							
第11回：教師と保護者の協働とその課題（担当：菅野英人）							
第12回：学校と地域の連携とその課題（担当：菅野英人）							
第13回：教師に必要な資質と力量形成（担当：菅野英人）							
第14回：社会変革のうねりの中の教師（担当：加藤 隆）							
第15回：「生きぬく力」を育てる教師 講義のまとめ（担当：加藤 隆）							
定期試験							
テキスト							
「教職概論 ―教師を目指す人のために―」佐藤晴雄著 学陽書房							
参考書・参考資料等 講義の中で適宜紹介する							
学生に対する評価							
授業の意欲態度 20%、提出物 30%、定期試験 50%を総合的に見て評価する。							

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：明田川知美 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 公教育制度の意義や原理について基本的な知識と身につけるとともに、社会の状況や取り組むべき課題について自ら考え、学校経営や教育改革のあり方について考察する力をつけることを目指す。			
授業の概要 本科目では、公教育制度の成り立ちと基本原理、学校経営や教育行政についての基本的な知識を身につける。また今日的な課題として、①学校と地域との連携や協働のあり方について、②学校における安全管理のあり方について考察する。			
授業計画（1コマ90分） 第1回：公教育の成り立ちと原理（先人の教育観：コメニウス、ペスタロッチ、コンドルセ他） 第2回：公教育制度の概要と学校経営（教育を受ける権利・義務教育制度：憲法、教育基本法） 第3回：教育の目的と学校の目標（学校教育法、教育職員免許法、教育公務員特例法、他） 第4回：学校を取り巻く諸課題を考える：教員不足、不登校及び生徒指導上の諸問題、など 第5回：教育行政：戦後の教育委員会制度の原則と今日的課題について考える 第6回：学校と地域の連携・協働を考える：コミュニティスクールと開かれた学校づくり 第7回：学校安全を考える：学校保健安全法の制定と今日的な安全管理における課題 第8回：まとめ：今後の教育改革について考える（オルタナティブ教育の可能性、他）			
定期試験			
テキスト 横井敏郎編著(2022)『教育行政学』八千代出版			
参考書・参考資料等 講義中に随時紹介する			
学生に対する評価 平常点（課題提出等）40％ 定期試験 60％			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安念保昌 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。具体的には、発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を学修し、また、各発達段階における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学修する。 さらに、幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に着け、発達を踏まえた学修を支える指導について基礎的な考え方を理解する。具体的には、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎、主体的学習を支える動機付け・集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けを理解し、それを支える指導の基礎となる考え方を学修する。			
授業の概要 上記の到達目標を達成すべく、学習し、教えることに関して、実験・調査・観察による科学的手法を学んでゆく。相手をよく見るために、人はどのように発達し認知し、動機付けを持つのかを学び、また様々な人間関係における教え方を身につけなければならない。幼児・児童・生徒の心身の発達段階と認知様式に対応した支援や学習の過程についての基礎的過程と理論を学修する。近年、教育の現場は多くの問題を抱えており、教育心理学がどのように対応していくかを学んでゆく。さらに、障害を持った子供たちを理解し、支援していくことも学ぶ。			
授業計画(1コマ90分) 第1回：教育心理学とは何か:教育心理学の歴史と目指す方向 第2回：発達:発達の基本法則、発達段階と発達課題 第3回：認知発達:認知の発達、共同注意、心の理論 第4回：学習:古典的条件付け、オペラント条件付け、行動分析学 第5回：記憶:ワーキングメモリ、長期記憶、記憶方略 第6回：知能と学力:知能検査の歴史、知能指数、メタ認知 第7回：言語発達:聞く・話す・読み書きの発達 第8回：動機づけ:コンピテンス、外発的・内発的動機付け、学習性無力症 第9回：パーソナリティと社会性の発達:類型論、特性論、協調関係の形成 第10回：教授学習過程:授業形態、発見学習、授業分析 第11回：教育評価:評価の歪み、相対評価、絶対評価 第12回：教師:リーダーシップ、ピグマリオン効果、メンタルヘルス、レジリエンス 第13回：問題行動:いじめ、非行、非社会的行動、モンスターペアレント、ストレス 第14回：教育相談:生徒指導、来談者中心療法、認知行動療 第15回：様々な障害と支援:ASD、LD、ADHDの理解、特別支援教育 定期試験			
テキスト 毎回授業資料を配る			
参考書・参考資料等 1. 杉森伸吉・松尾直博・上淵寿共編著「コアカリキュラムで学ぶ教育心理学」培風館 2. 中澤潤編「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房 3. 速水敏彦編「教育と学びの心理学」名古屋大学出版会			
学生に対する評価 毎回復習として課されるワークシート 60% 定期試験 40%			

授業科目名： 特別支援教育概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：松井由紀夫
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 障害をもつ子どもに対する教育現「場」における支援のあり方について理解する。 2. 臨床心理学・障害児心理学の基礎的な理論・技法を学ぶ。 3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を学習する。 4. 特別支援を要する子ども達の特徴を個性ととらえるインクルーシブ教育について学ぶ。				
授業の概要				
幼児期から思春期（青年期前期）にかけて生ずる様々な障害について、発達の視点から、その態様と対処の仕方を学んでいく。また、特別な支援を要する子ども達の教育のあり方について児童・生徒の多様性を前提としたインクルーシブ教育を中心に学んでいく。 心理的障害に対しては、カウンセリングマインドに基づく受容的働きかけを、また、発達障害に対しては主に行動療法的な働きかけの重要性を学び、特別な支援を要する幼児・児童ならびに生徒が通常学級の中で自己実現を目指せる環境作りを考えていく。 他にも、様々な障害のある子どもや、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもの特性や支援の方法を学ぶ。その際、特別支援教育のシステム、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導などの教育の場、様々な教育課程、個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義を理解する。また、特別支援教育の最大の特徴である自立活動について、基礎的な知識を学ぶ。				
授業計画（1コマ90分）				
第1回：「教育の場における児童生徒の生活上、学習上の困難とは」（インクルーシブ教育へのイントロダクション） 第2回：「臨床心理の考え方」（認知行動療法、来談者中心療法、精神分析） 第3回：「発達段階による心理社会的な課題」（対処する学級体制の構築） 第4回：「発達障害の理解と対応」（学習障害（LD）・発達障害（ADHD）・自閉症スペクトラム） 第5回：「知的障害・心身障害の理解」（知的障害、肢体不自由、病弱、重症の心身障害のある子どもの特性と支援の方法の理解） 第6回：「視覚・聴覚障害の理解と支援」（視覚障害、聴覚障害、その他の特別な教育的ニーズのある子どもの特性と支援の方法の理解） 第7回：「特別支援教育制度と実際の理解」（特別支援教育の制度と教育課程、教育計画の理解） 第8回：「通級による指導及び自立活動の意義、実際と指導者の問題」（通級による指導、自立活動の意義、目標、内容、方法、指導者に関する問題の理解）				
テキスト				
適宜、プリントを配布する。				
参考書・参考資料等				
1. 特別支援学校幼稚部教育要領（平成29年4月告示）、小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月） 2. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）				
学生に対する評価				
講義形式、講義後配布プリントを読み、ノートを整理する。 毎時間の到達目標に関するレポートにより評価する。				

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：松田剛史 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育課程の意義や効果的な教育課程編成のあり方について理解することができる。 2. カリキュラム・マネジメントの実際と課題について考えることができる。			
授業の概要			
1. 児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について、教育課程編成の観点から主体的に考える時間とする。 2. 自らが意見を持ち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや学びを深める場とする。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回：学校教育における教育課程の役割とは何か ・学習指導要領の持つ特徴や教育課程編成の目的を理解する。			
第2回：学校教育における教育課程の機能や意義とは何か ・学習指導要領の変遷とその社会的背景を理解する。			
第3回：学校教育の中に教育課程がある社会的意義は何か ・不易と流行の教育課程とは。時代の変遷の中で有する役割と機能を理解す			
第4回：教育課程編成の基本にあるものは何か ・何を学び、どのように編成するのかの基本原則を理解する。			
第5回：学校の教育実践につながる教育課程編成とはどんなことか ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法に取り組			
第6回：学校の教育実践につながる教育課程編成の視点とは何か ・単元など長期的な視点、児童及び生徒や学校・地域の実態の視点を踏まえた教育課程の重要性を理解する。			
第7回：教科や領域及び学年をまたいだカリキュラムの捉え方とその意義とは何か ・学習指導要領に定めるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解す			
第8回：学校教育課程全体をマネジメントするとはどんなことか ・カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。			
定期試験			
テキスト ・尾崎博美、井上元 編 『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版 2018年 978477951267			
参考書・参考資料等 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房 2018年 9784827815597			
学生に対する評価			
・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス（認知度）30％：学習評価シート ・能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス（参加度）30％：学習状況の観察 ・各種学習成果（学修度）40％：考査や提出物等			

授業科目名： 道徳教育論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：加藤 隆
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探求の時間並びに特別活動に関する内容		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 近代以降の欧米と日本の道徳・道徳教育に関する歴史と理論について理解する。				
2. 現代日本の道徳教育の制度・しくみの現状と改革の課題について理解する。				
3. 現代日本の学校における道徳教育の実践あるいは授業実践について考察し、道徳教育の教材・教科書の活用とともに新たな指導法の開発・修得を行う。				
授業の概要				
道徳教育とは、人間が本来、人間としてよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動であり、学校教育の中核となるものである。本講義では、道徳・道徳教育の歴史や理論の研究をふまえ、学校現場における道徳教育の実際について学習することを通じ、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てる具体的な在り方について学ぶものとする。				
授業計画				
第1回：道徳とは何か 道徳教育の現状				
・現代日本の道徳・道徳教育の現状と課題				
第2回：道徳・道徳教育の歴史と理論				
・近代以降の欧米と日本における道徳・道徳教育の歴史と理論について学ぶ				
第3回：道徳教育の指導計画、学校教育に占める位置				
・学校における道徳教育の位置並びに道徳教育の指導計画の実際について学ぶ				
第4回：道徳教育の指導計画、生徒指導と道徳教育の課題				
・道徳教育と学級・学年・全学年の生徒指導の課題との密接な関わりを学ぶ				
第5回：学習指導案の研究と作成1（小学校における実践例と研究				
・児童の発達段階・児童の現状に適しい教材の選択・考える道徳授業をつくる				
第6回：学習指導案の研究と作成2（中学校における実践例と研究）				
・生徒の発達段階・生徒の現状に適しい教材の選択・考える道徳授業をつくる				
第7回：学習指導案の研究と作成3（道徳教育の課題と指導法）				
・道徳教育の課題にあわせて様々な道徳教育指導法があることを学ぶ				
第8回：まとめと道徳教育の展望				
・改革をめざす現代の道徳教育の内容・方法の課題と展望を明らかにする				
定期試験				
テキスト				
「小学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科道徳編」（廣済堂あかつき）				
「中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科道徳編」（教育出版				
参考書・参考資料等				
毎回の授業で適宜関係資料等を配布する。				
学生に対する評価				
定期試験：授業全体の理解について評価する 50%				
提出物：毎回講義終了に提出される振り返りシート 30%				
その他：講義中に設ける討論の参加度や意欲態度 20%				

授業科目名：特別活動 ・総合的学習指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高橋公平・大室道夫 担当形態：オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		
授業のテーマ及び到達目標 小中学校の教育課程には各教科とともに学級活動・委員会活動といった「特別活動」、学校や地域、子どもの側に即して構想される「総合的な学習の時間」が位置付けられている。これらが教育課程上どのような役割をはたしているのか、またその授業の実際について理解することを目的とする。				
授業の概要 この授業では様々な実践例を提示する。これらの実践例から教師の教育的意図、子どもの思考の文脈、成長について分析することを通して、学校の有機的な機能が理解できることを第一の目的とする。それを踏まえて受講者自身の子ども観・学校観を豊かにし、教育実習や学校支援ボランティア等で生かすことができるようになることを第二の目的とする。				
授業計画（1コマ90分） 第1回(大室)：「特別活動・総合的な学習とは何か」ガイダンス、「学級びらき」と特別活動。特別活動と総合的な学習とは何か。 第2回(大室)：「特別活動の意義と歴史」特別活動の始まり。特別活動の歴史、意義。基本原理、育てる資質能力、食の指導に関わること 第3回(大室)：「学級づくりと特別活動」学級会や班活動の意義と実践、係活動と特別活動。食の指導に関わること 第4回(高橋)：「キャリア教育と特別活動・総合的な学習」生活指導や委員会活動や主権者教育とキャリア教育との関係、評価、自治活動 第5回(高橋)：「総合的な学習の理論的背景」学力と総合、総合的な学習の時間の歴史と現在 第6回(大室)：「総合的な学習の実践例1」 小学校における総合的な学習の実践例 ～教科横断的学習と探究・表現～ 第7回(大室)：「総合的な学習の時間の実践例2」 地域の産業の実態と課題を追究する総合的学習 ～漁業・農業～ 第8回(高橋)：「総合的な学習の時間の未来」 SDGsと総合的な学習 ～子どもの社会参画へとつながる学び～				
テキスト 1. 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省） 2. 「中学校学習指導要領（平成29年告示）」（文部科学省）その他、毎回、資料を配布する。 なお、「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」は、文部科学省のホームページから閲覧、ダウンロードすることができるので、必要に応じそちらを活用されたい。				
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。				
学生に対する評価 ・毎回の授業後にリフレクションシートを記述、提出してもらう。シートでは授業の概要の理解度と、受講者の洞察力（気づきや授業の本質に迫る質問）について評価する。 ・レポートは、授業で提示した実践例から一つ選び、その実践についての分析、検討を記述する。また、小中学校での授業づくりにつながる簡単な調査課題を課す。実践をもとに自らの意見を展開できているかについて評価する。 レポート 40%、提出物 40%、その他 20%				

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 庄井良信・大室道夫・松田 剛史 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1 効果的な教育指導のあり方について理解することができる。 2 児童生徒に身につけさせたい資質能力について考えることができる。			
授業の概要			
1 児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について、教育方法の視点から主体的 に考える時間とする。 2 自らが意見を持ち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや 学びを深める場とする。 3 情報機器等を活用して教材を作成することができる。			
授業計画（1コマ90分）			
第1回(庄井)：教育方法とは何か ・「教育」と「学習」の違いとその関係性について認識し、適切な指導方法のあり方について考える。 第2回(庄井)：現場の教師はどうやって授業をつくるか？① ・「本質的な問い」を軸にした授業づくりについて考える。 第3回(庄井)：現場の教師はどうやって授業をつくるか？② ・教科指導を例に、授業において身につけたい資質能力について考える 第4回(松田)：学習を計画するということ ・学習指導案の機能と意義について理解する 第5回(庄井)：学習を評価するということ ・目標に準拠した学習評価について理解する 第6回(大室)：アクティブ・ラーニングに教師はいらない？ ・ヒドゥン・カリキュラムとしての教師の指導のあり方について考える。 第7回(大室)：授業の”外”が授業／学校を変える？ ・反転授業の発想と教科外領域への視点について考える。 第8回(大室)：情報教育メディアの活用 ・各種教育メディアの特性と利用、情報モラルのあり方、情報活用能力の指導について考える。			
定期試験			
テキスト ・尾崎博美、井上元 編 『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版 2018年 9784779512674			
参考書・参考資料等 適宜、プリントを配布する。			
学生に対する評価			
・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス（認知度）30%：学習評価シート ・能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス（参加度）30%：学習状況の観察 ・各種学習成果（学修度）40%：考查や提出物等			

授業科目名： 生徒指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：佐藤憲夫 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 生徒指導の理論及び方法 (到達目標) 1. 生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。 2. 生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。 3. 生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。 4. 発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。				
授業の概要 生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為など幅広い生徒指導の実態を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方についての学習を深める。実際の教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行い、実践的な生徒指導の視点を養う。				
授業計画 第1回：生徒指導とは何か（原理と位置づけ） 第2回：生徒指導の方法と体制 第3回：生徒指導の発達観指導観とその範囲 第4回：道徳・特活・総合的な学習の時間における生徒指導 第5回：生徒指導と問題行動 第6回：いじめ問題と生徒指導 第7回：課題をかかえる児童・生徒と生徒指導 第8回：教職員の体制と生徒指導 定期試験				
テキスト 「（新）生徒指導提要」（文部科学省）他、毎回関連する資料を配付する。 「（新）生徒指導提要」は、文部科学省のホームページを閲覧し活用する。				
参考書・参考資料等 授業時に適宜紹介する				
学生に対する評価 試験 80％：試験は課題内容を理解したうえで、自らの考えを加え咀嚼し、意見を展開できているかという観点で評価する。 レポート 20％：講義中に学習者自身の体験やコメント等の小レポートを課す。				

授業科目名： 教育相談論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川俣智路
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育相談の概念を理解し、教育相談に必要なスキルを身に付け、状況、課題に応じて適切な教育相談を児童・生徒や保護者に提供することができる				
授業の概要 教員の業務の中心は授業であるが、それとともに日本の教員は授業以外のさまざまな教育活動に従事することとなる。本講義ではいじめ問題への対応、不登校の児童・生徒とその保護者への対応、発達に偏りがある児童・生徒とその保護者への対応、授業、行事などの学習の場においてサポートが必要な児童・生徒とその保護者への対応、家庭環境が不安定な児童・生徒とその保護者への対応について学ぶ。また、こうした対応のためにカウンセリングの基礎的技法、児童・生徒の能力や性格を理解するアセスメント能力、児童・生徒やその保護者の情報を共有し、対応を考える事例検討能力。支援ニーズのある児童・生徒への対応方法、不安定な養育体験が背景にある児童・生徒の理解と対応方法、教室を過ごしやすい環境に改善するための知識、技術などについて、身に付けることを目的とする。 講義の中では自分自身で考察する、体験的に学ぶ時間が用意されているので、理論はもちろんのこと、こうしたワークを通じて理論や技法を理解することが求められる。				
授業計画（1コマ90分） 第1回：教育相談とは何か 第2回：子どもの心と発達 第3回：聴き取るとはどういうことか～模擬カウンセリング実習 第4回：相談を受けるとはどういうことか 第5回：いじめについて考える 第6回：いじめ対応について学ぶ 第7回：不登校について考える 第8回：特別支援教育について考える 第9回：特別支援教育の実践 第10回：授業での学びを支援する 第11回：児童虐待とスクールソーシャルワーカー 第12回：スクールカウンセラーの仕事とは 第13回：担任としての教育相談 第14回：事例検討の方法 第15回：理解を深めるためのまとめのワーク 定期試験				
テキスト 講義時に資料を配布する。				
参考書・参考資料等 『児童生徒理解のための教育心理学』 ナカニシヤ出版 2013年 『ガイドライン学校教育心理学』 ナカニシヤ出版 2016年				
学生に対する評価 試験（成績評価の70%、毎授業ごとに実施される確認テスト(チェックアウト)が2%×15回、定期試験が40%） 授業時に実施するミニワークへの参加と参加報告（成績評価の30%、ミニワークは3回実施）				

授業科目名： 教職実践演習（養護教諭）		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：加藤 隆、渡邊祐美子、西野昭子、山崎由理 担当形態：複数・オムニバス	
科 目		教育実践に関する科目					
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○		
受講人数	1 5 人						
教員の連携・協力体制 教職科目担当教員、専門科目担当教員および養護実習担当教員との密な連携を図りながら、学生の課題を明確にし、不足している知識・技能の獲得を目指す授業）構築する。また、現場で活躍する養護教諭の意見や保健活動の実践を反映させながら、実践に即した授業展開ができるように努める。							
授業のテーマ及び到達目標 教員としての使命感、責任感、社会性や対人関係能力について理解し、身に付ける。 養護教諭としての指導力等について自己課題を確認し、課題解決に向けた探究を通して必要な知識や技能を習得する。							
授業の概要 教職課程科目、専門科目、及び養護実習における学修と実践を通して自己課題を発見し、不足している知識・技能を獲得するとともに、自身のめざす養護教諭像の具現化に向け基礎的な資質能力を形成する。 授業ではグループワークやディスカッション、事例研究、ロールプレイング等の方法を用いて、学校での保健活動の場を想定しながら養護教諭の役割について理解を深め、判断力、実践力、及び指導力を養う。また、履修カルテの活用を行い、自己を振り返り、自己課題解決をしっかりと行っていく。 養護教諭の職務におけるICTの活用を念頭に、グループワークなど授業中のPC利用を積極的に行う。							
授業計画							
第1回：ガイダンス（科目の趣旨・ねらい） 「履修カルテ」を活用したこれまでの学修の振り返り (担当：加藤 隆)							
第2回：児童生徒の健康課題と保健室経営の具体策（1） 児童生徒の健康課題の把握等 (担当：山崎由理)							
第3回：児童生徒の健康課題と保健室経営の具体策（2） 保健室経営目標、保健室経営計画の策定 (担当：山崎由理)							
第4回：児童生徒の健康課題と保健室経営の具体策（3） 保健室経営目標、保健室経営計画の発表と全体討論 (担当：山崎由理)							
第5回：養護教諭に求められるフィジカルアセスメント（1） 学校における外科的救急処置事例検討① (担当：渡邊祐美子)							
第6回：養護教諭に求められるフィジカルアセスメント（2） 学校における外科的救急処置事例検討② (担当：渡邊祐美子)							
第7回：養護教諭に求められるフィジカルアセスメント（3） 学校における内科的救急処置事例検討① (担当：渡邊祐美子)							
第8回：養護教諭に求められるフィジカルアセスメント（4） 学校における内科的救急処置事例検討② (担当：渡邊祐美子)							
第9回：保健教育の実践（1） 保健指導指導案作成① (担当：渡邊祐美子)							
第10回：保健教育の実践（2） 保健指導指導案作成② (担当：渡邊祐美子)							
第11回：保健教育の実践（3） 保健指導の模擬発表と全体討論① (担当：渡邊祐美子)							
第12回：保健教育の実践（4） 保健指導の模擬発表と全体討論② (担当：渡邊祐美子)							

第13回：特別支援教育の理解と実際（１） 特別な支援を必要とする児童生徒の理解と対応①	（担当：西野昭子）
第14回：特別支援教育の理解と実際（２） 特別な支援を必要とする児童生徒の理解と対応②	（担当：西野昭子）
第15回：養護実習の振り返り（１） 児童生徒の理解と養護教諭の役割	（担当：山崎由理）
第16回：養護実習の振り返り（２） 実習で実施した保健指導・保健学習等を振り返る	（担当：山崎由理）
第17回：養護実習の振り返り（３） 実習校における児童生徒の健康課題	（担当：山崎由理）
第18回：学校における感染症対策の実際 実習校における感染症対策、養護教諭の役割を振り返る	（担当：山崎由理）
第10回：健康診断の実際 実習校における健康診断、学校医、歯科医との連携、事後措置の留意点を振り返る	（担当：渡邊祐美子）
第20回：健康相談事例検討①	（担当：渡邊祐美子）
第21回：健康相談事例検討②	（担当：渡邊祐美子）
第22回：健康相談事例検討③	（担当：渡邊祐美子）
第23回：学校保健安全と危機管理	（担当：渡邊祐美子）
第24回：児童生徒の健康課題解決のための望ましい校内連携	（担当：渡邊祐美子）
第25回：関係機関等の役割と連携 SSWとのディスカッション	（担当：渡邊祐美子）
第26回：これからの時代に求められる養護教諭（１） 現場の養護教諭を交えたディスカッション	（担当：山崎由理）
第27回：これからの時代に求められる養護教諭（２） 現場の養護教諭を交えたディスカッション	（担当：山崎由理）
第28回：養護教諭としての資質・能力（１） 「履修カルテ」を用いて、学修のまとめと振り返り、発表準備	（担当教員全員）
第29回：養護教諭としての資質・能力（２） 学修のまとめと振り返り、発表	（担当教員全員）
第30回：「教職実践演習の振り返り」、「履修カルテ」の記入・自己評価 定期試験は実施しない。	（担当教員全員）
テキスト 授業開始時に提示	
参考書・参考資料等 改訂 養護実習ハンドブック（編著：大谷尚子・中桐佐智子、東山書房（2015）） 新訂版 学校保健実務必携 第5次改訂版（編著：学校保健・安全実務研究会、第一法規（2020）） その他、適宜紹介、配布、提示する。	
学生に対する評価 既習科目と実習の学びを統合させ、養護教諭として必要な資質能力が習得できているか評価する。	